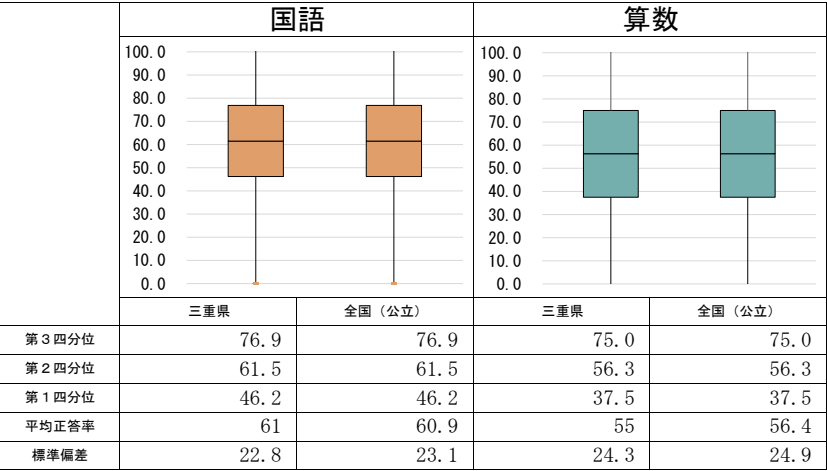


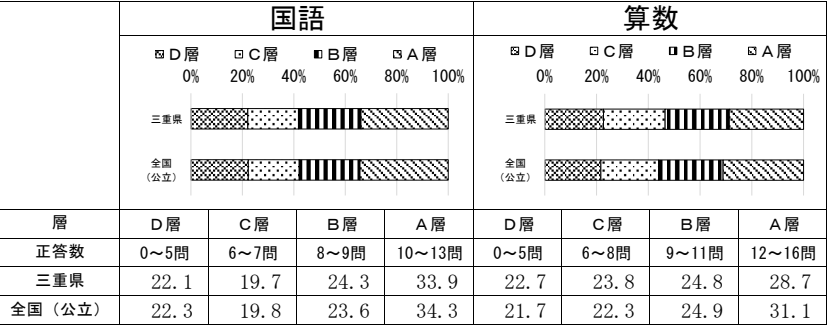
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

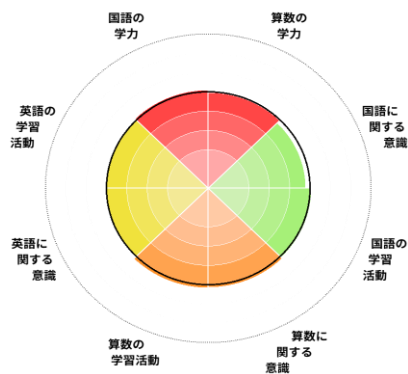


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）

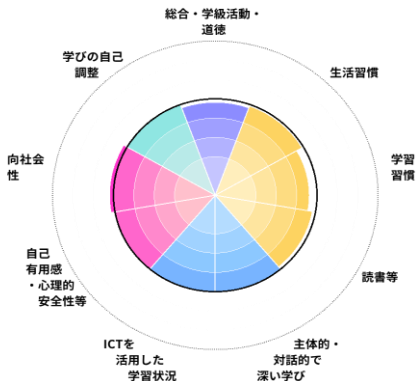


<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.1
2	算数の学力		5.0
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.8
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.1
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.1
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.2
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	5.0
8	英語の学習活動	(72) (73)	5.0

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



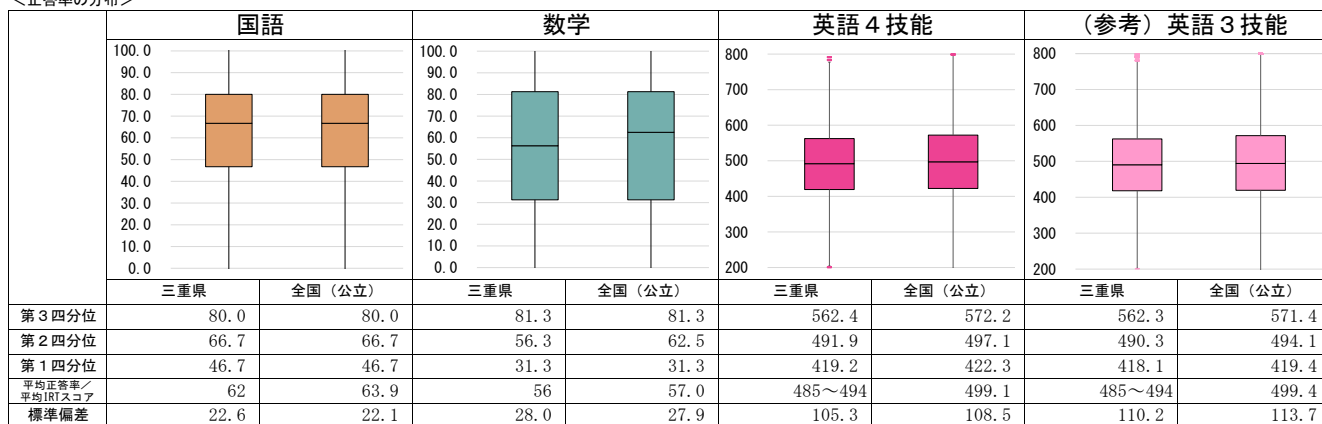
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.8
10	生活習慣	(1) ～ (4)	4.9
11	学習習慣	(23) (25)	4.6
12	読書等	(26) ～ (30)	4.8
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.0
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.0
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.0
16	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.2
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.0

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

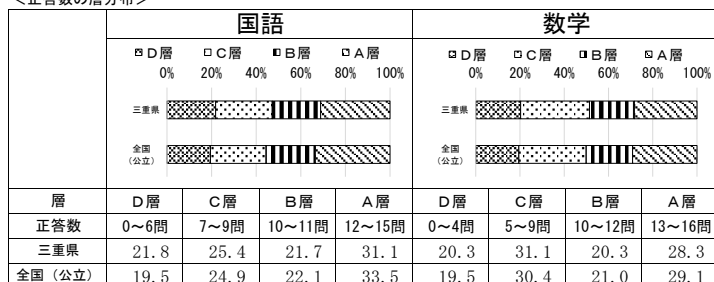
②中学校

<正答率の分布>



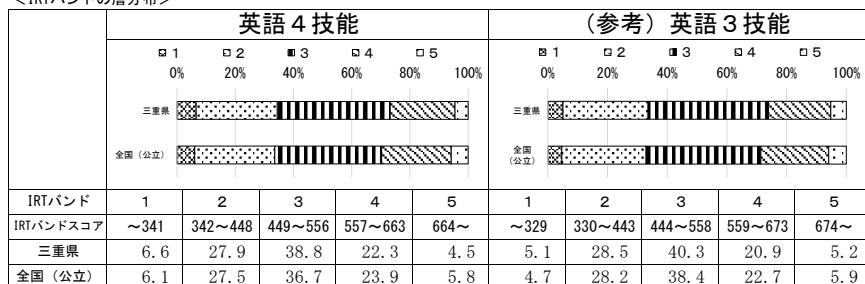
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答率の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

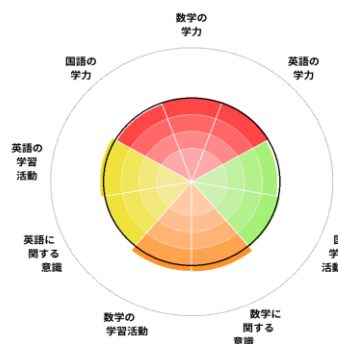


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

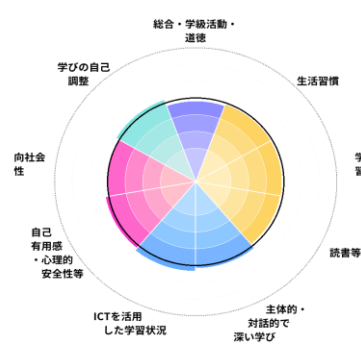
<結果チャート>

※全国平均 (5.0) を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.9
2	数学の学力		5.1
3	英語の学力		5.1
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.9
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.1
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.4
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.4
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	5.0
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	5.2

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等) の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.8
11	生活習慣	(1) ～ (4)	4.9
12	学習習慣	(23) (25)	4.9
13	読書等	(26) ～ (30)	4.9
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.2
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.3
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.2
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.1
18	学びの自己調整	(22) (43)	5.2

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

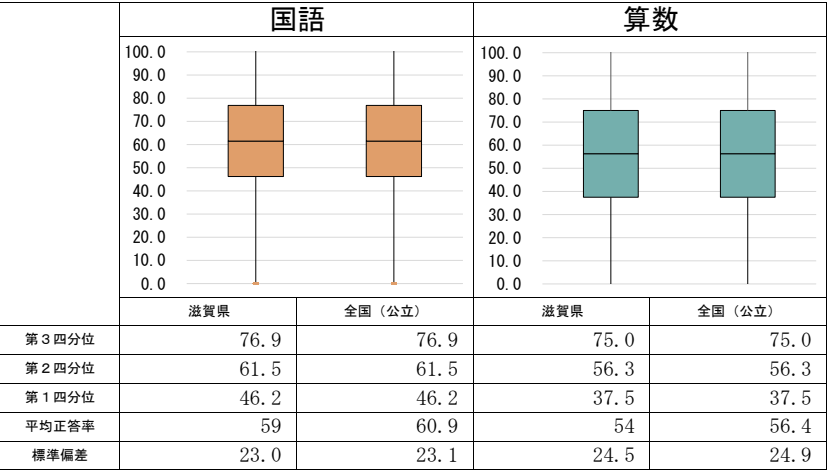
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「向社会性」や「算数の学習活動」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「学習習慣」や「総合・学級活動・道徳」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「数学に関する意識」や「ICTを活用した学習状況」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「総合・学級活動・道徳」や「学習習慣」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

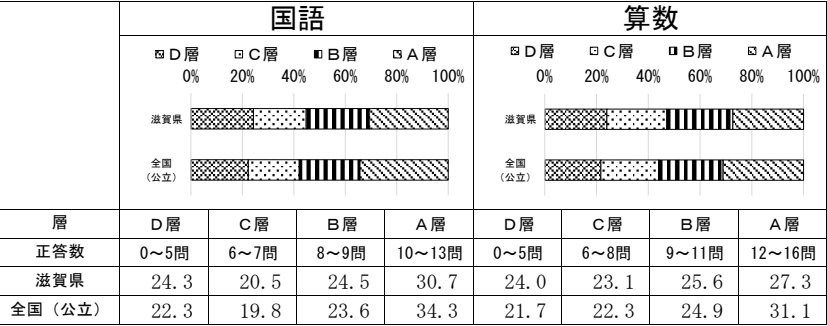
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

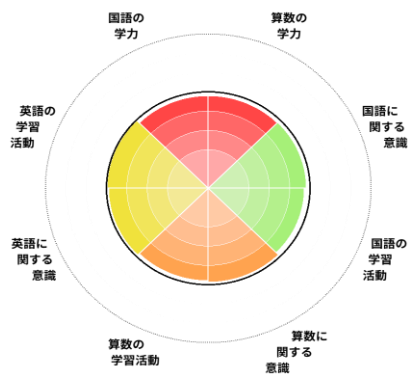


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）

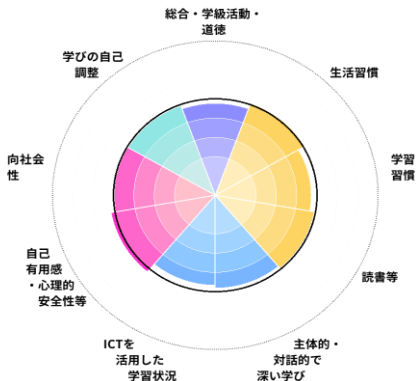


<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.8
2	算数の学力		4.8
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.8
4	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	4.7
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.9
6	算数の学習活動	(62) (65) ~ (67)	4.8
7	英語に関する意識	(69) ~ (71)	4.9
8	英語の学習活動	(72) (73)	5.0

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



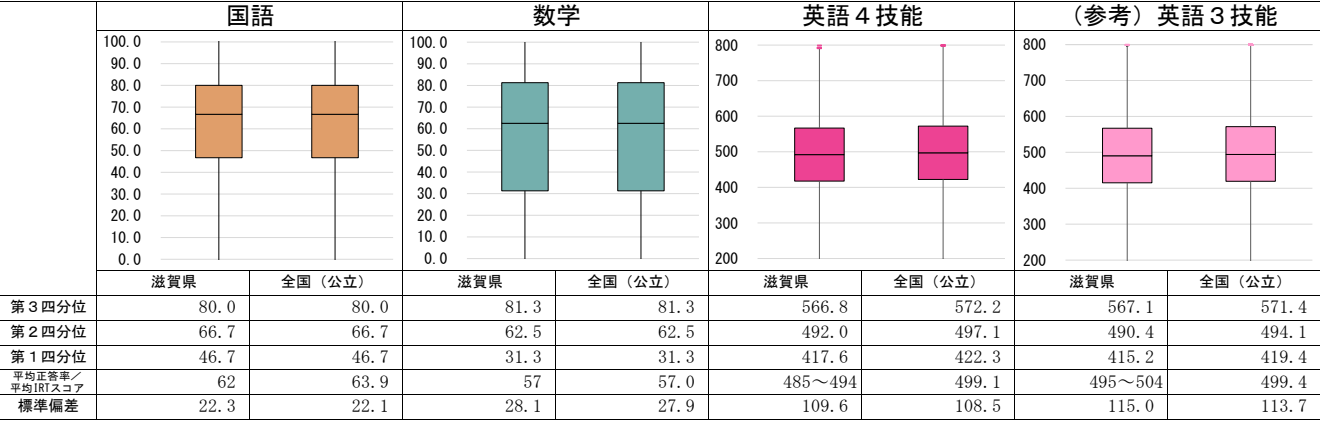
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	4.8
10	生活習慣	(1) ~ (4)	5.1
11	学習習慣	(23) (25)	4.7
12	読書等	(26) ~ (30)	4.9
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	4.8
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	4.7
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.2
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.0
17	学びの自己調整	(22) (43)	4.9

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

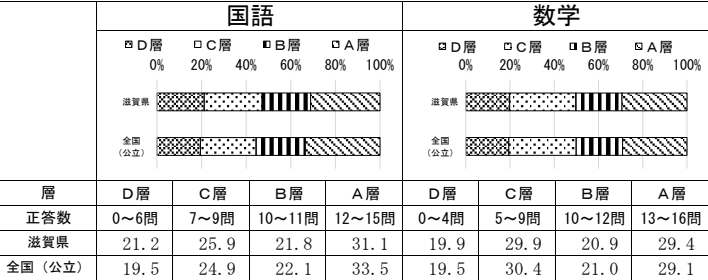
②中学校

<正答率の分布>



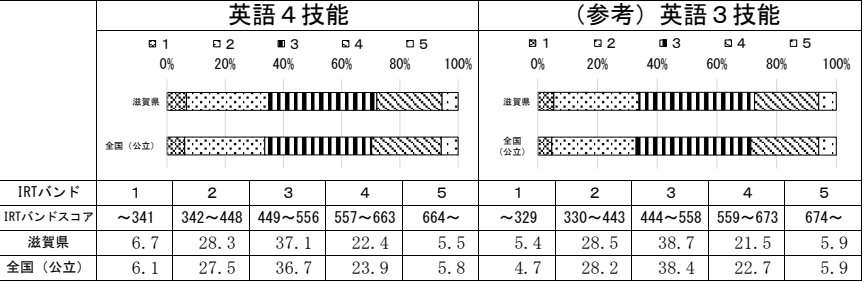
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

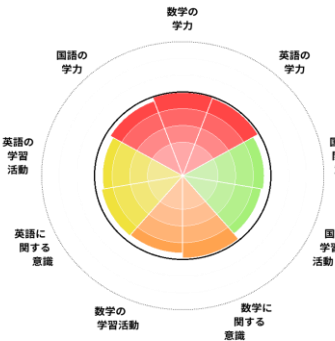


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

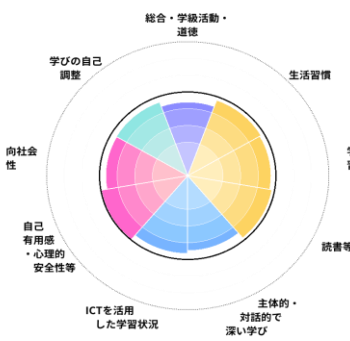
<結果チャート>

※全国平均 (5.0) を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.7
2	数学の学力		5.0
3	英語の学力		4.9
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.6
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.5
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.9
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.6
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.7
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.5

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等) の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.4
11	生活習慣	(1) ～ (4)	4.8
12	学習習慣	(23) (25)	4.7
13	読書等	(26) ～ (30)	4.8
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.5
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.6
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.0
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	4.6
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.7

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

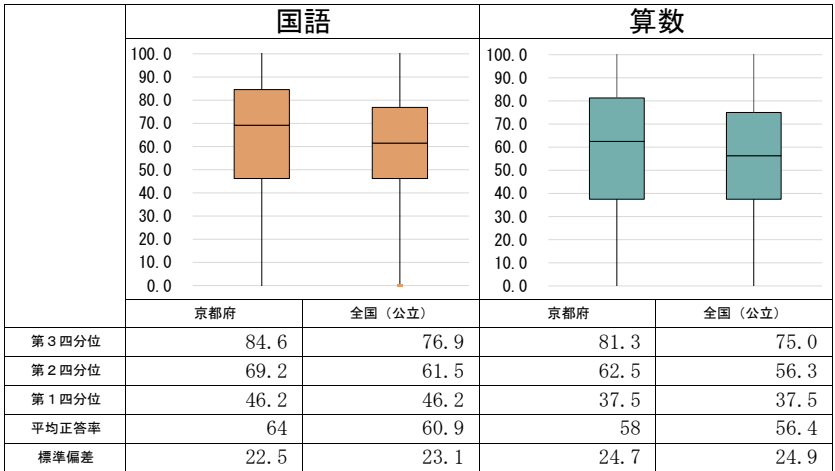
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
 - ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
 - ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「自己有用感・心理的安全性等」や「生活習慣」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「ICTを活用した学習状況」や「学習習慣」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「自己有用感・心理的安全性等」や「数学に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「総合・学級活動・道徳」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、低い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して低い）。

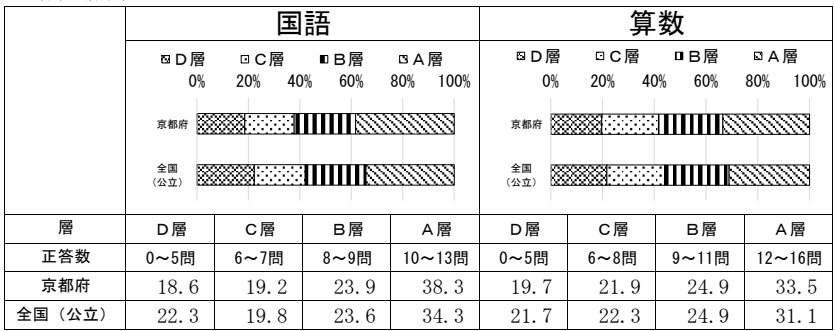
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

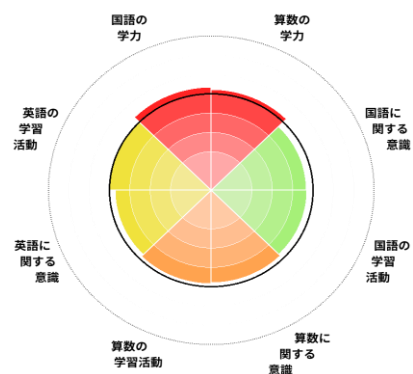


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

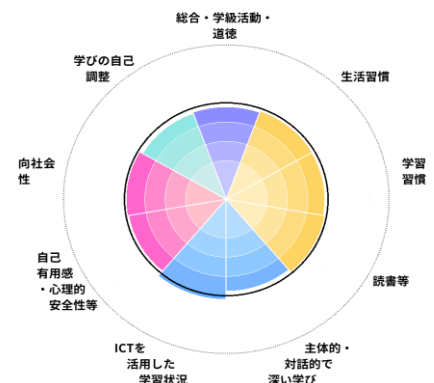
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.4
2	算数の学力		5.2
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.7
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.7
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.8
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.8
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	4.7
8	英語の学習活動	(72) (73)	5.1

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

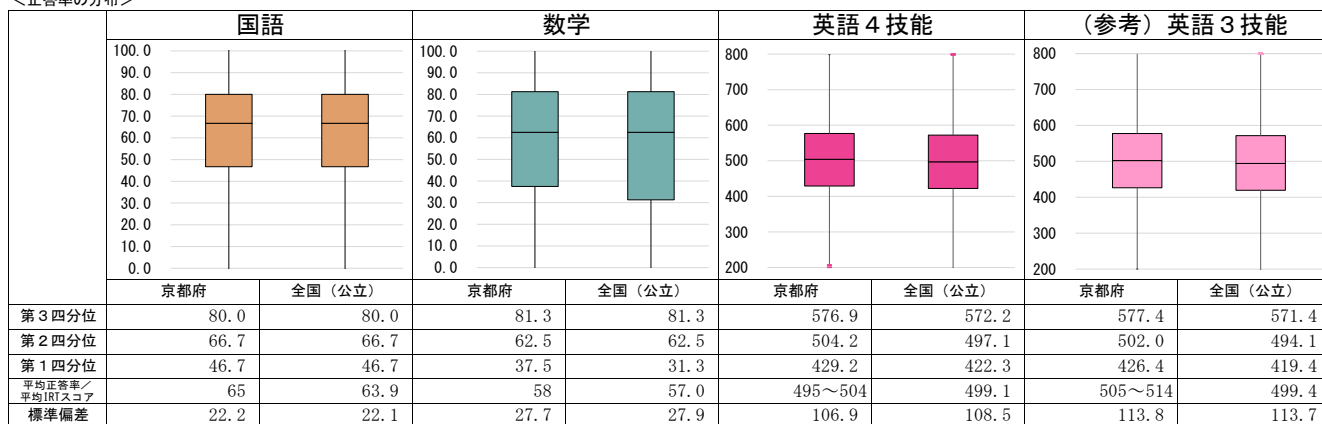
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.8
10	生活習慣	(1) ～ (4)	4.9
11	学習習慣	(23) (25)	4.8
12	読書等	(26) ～ (30)	4.9
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.8
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.2
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.9
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	4.9
17	学びの自己調整	(22) (43)	4.7

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

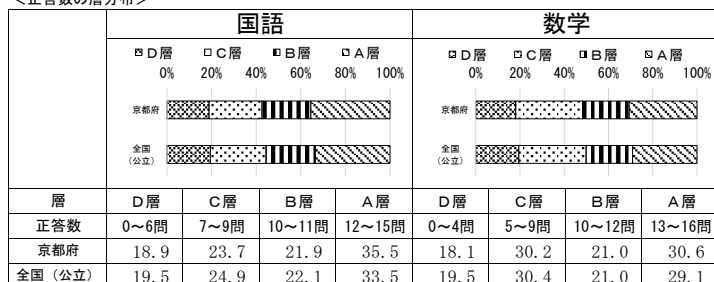
②中学校

<正答率の分布>



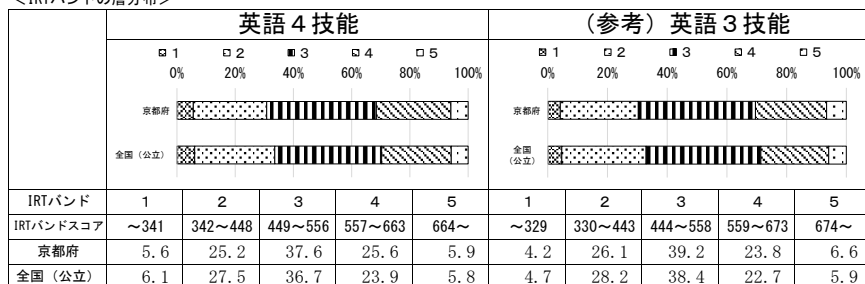
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

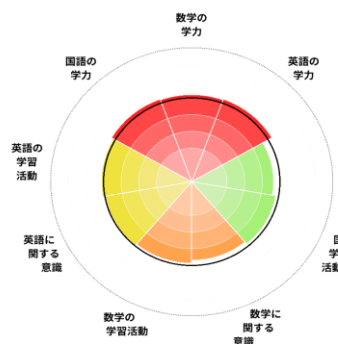


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

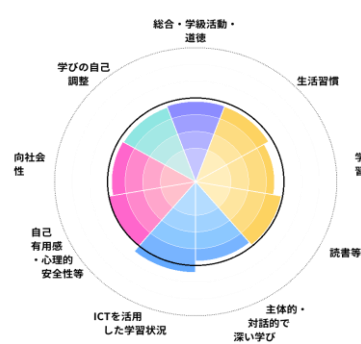
<結果チャート>

※全国平均 (5.0) を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.2
2	数学の学力		5.2
3	英語の学力		5.2
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.6
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.8
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.7
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.9
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	5.0
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	5.1

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等) の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.8
11	生活習慣	(1) ～ (4)	4.8
12	学習習慣	(23) (25)	4.5
13	読書等	(26) ～ (30)	4.9
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.7
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.4
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.0
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	4.7
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.7

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

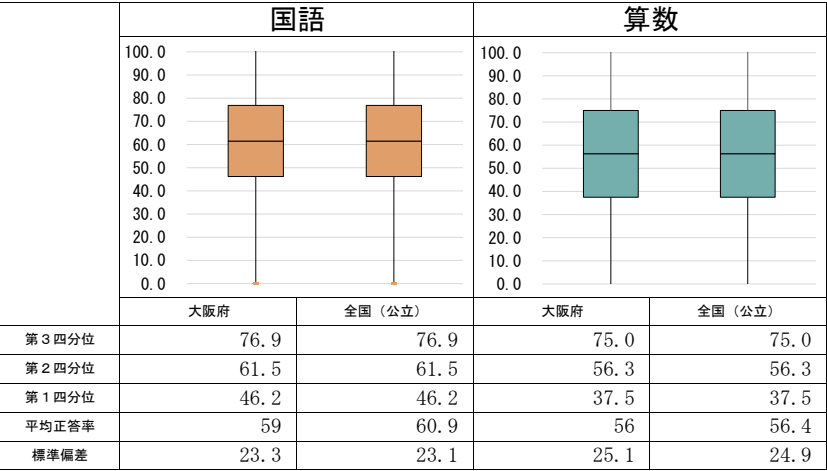
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
 - ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
 - ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「ICTを活用した学習状況」や「英語の学習活動」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「学びの自己調整」や「国語に関する意識」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「ICTを活用した学習状況」や「英語の学習活動」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「学習習慣」や「国語に関する意識」領域のスコアについて、低い結果が出ている（うち、「学習習慣」は、全国と比較しても低い）。

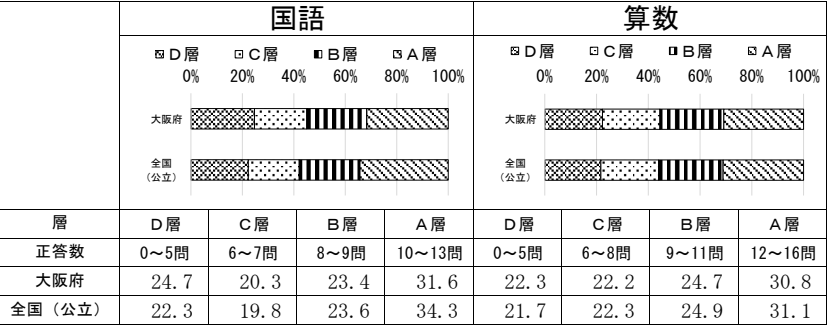
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

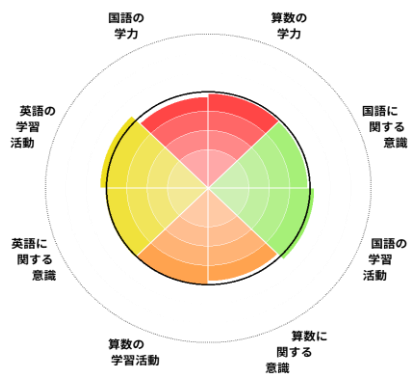


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

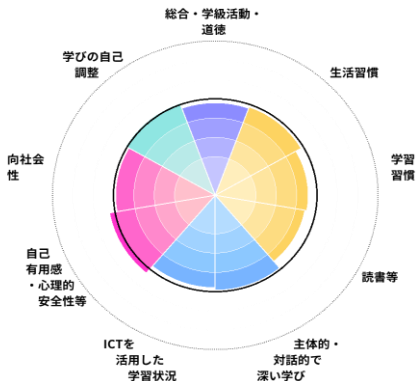
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.7
2	算数の学力		4.9
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.9
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.2
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.8
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.0
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	5.1
8	英語の学習活動	(72) (73)	5.3

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

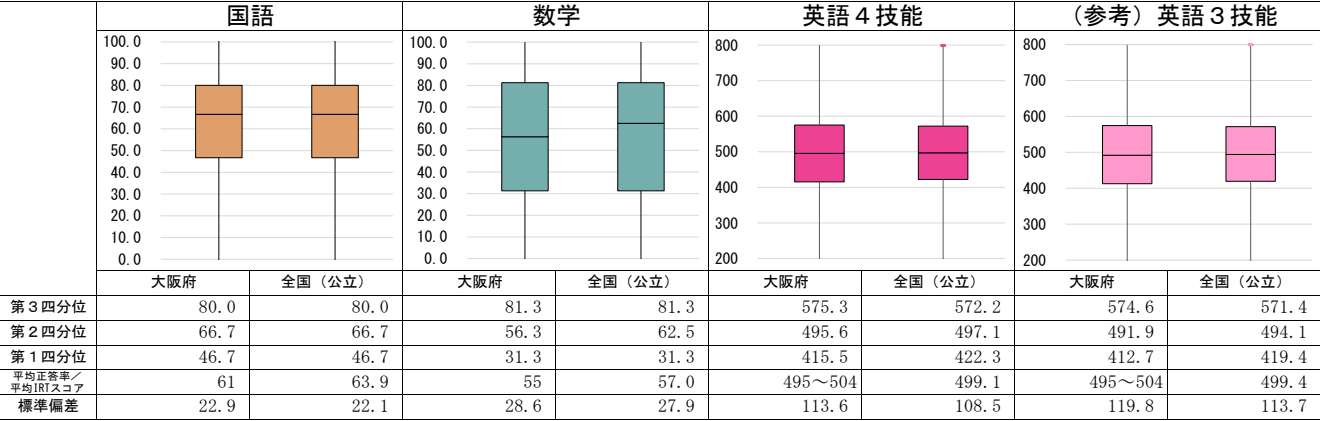
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.8
10	生活習慣	(1) ～ (4)	4.9
11	学習習慣	(23) (25)	4.6
12	読書等	(26) ～ (30)	4.5
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.9
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.8
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.3
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	4.9
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.1

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

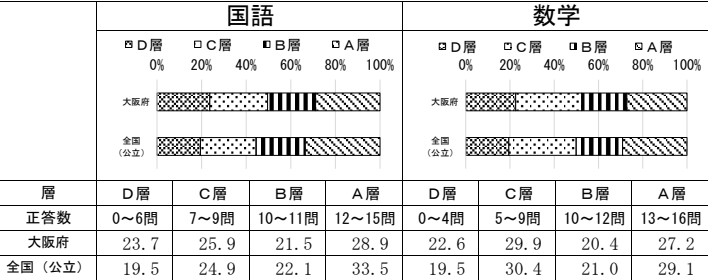
②中学校

<正答率の分布>



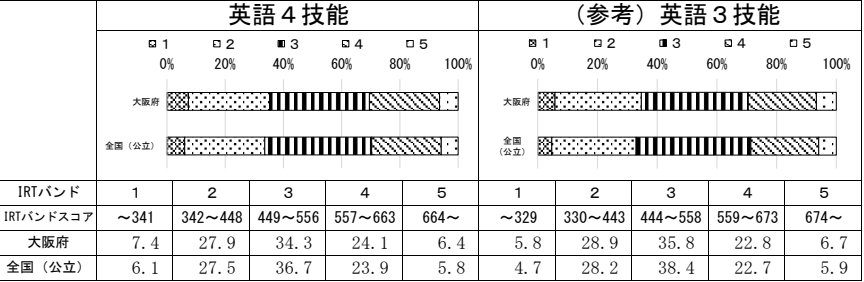
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

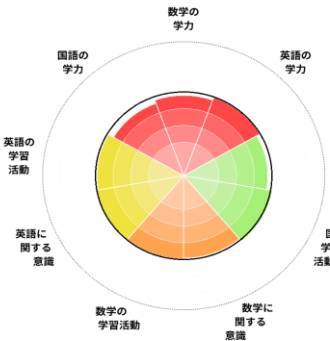


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

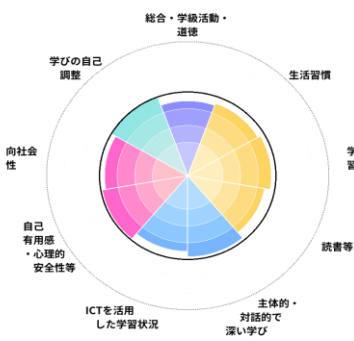
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.6
2	数学の学力		4.8
3	英語の学力		5.0
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.8
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.1
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.9
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.0
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	5.0
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.9

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.5
11	生活習慣	(1) ～ (4)	4.6
12	学習習慣	(23) (25)	4.7
13	読書等	(26) ～ (30)	4.4
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.8
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.5
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.9
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	4.7
18	学びの自己調整	(22) (43)	5.0

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

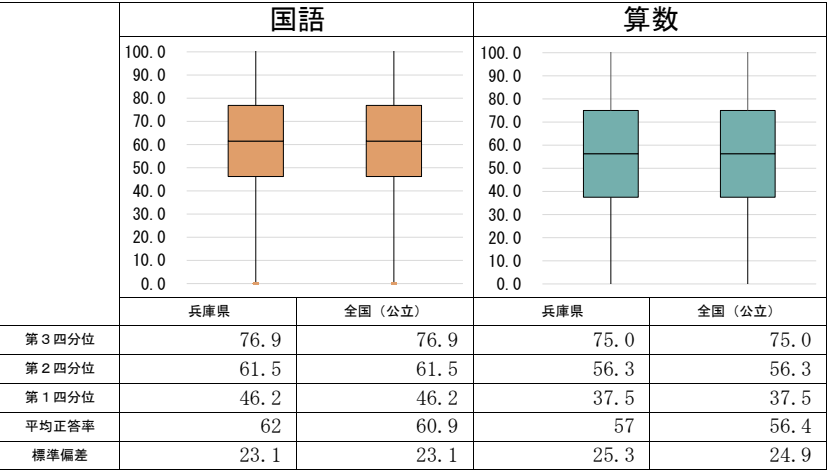
・小学校においては、「自己有用感・心理的安全性等」や「英語の学習活動」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「読書等」や「ICTを活用した学習状況」領域のスコアについて、低い結果が出ている（うち、「読書等」は、全国と比較しても低い）。

・中学校においては、「国語の学習活動」や「学びの自己調整」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「読書等」や「ICTを活用した学習状況」領域のスコアについて、低い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して低い）。

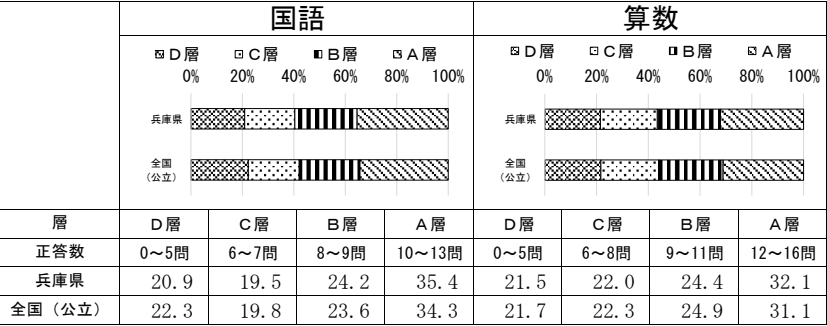
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

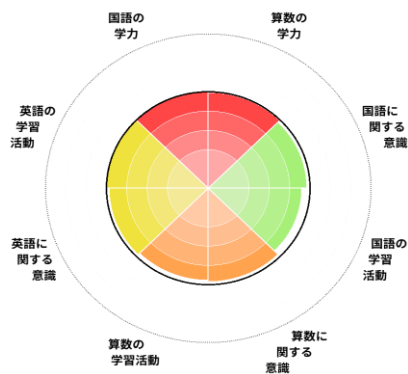


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

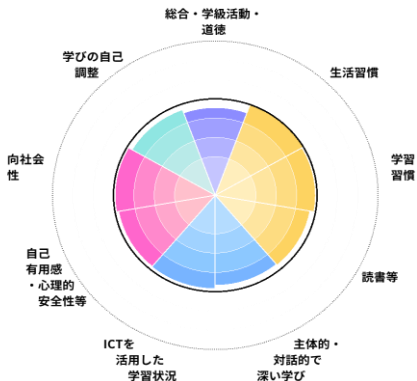
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.0
2	算数の学力		5.0
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.9
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.6
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.8
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.8
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	4.9
8	英語の学習活動	(72) (73)	5.0

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

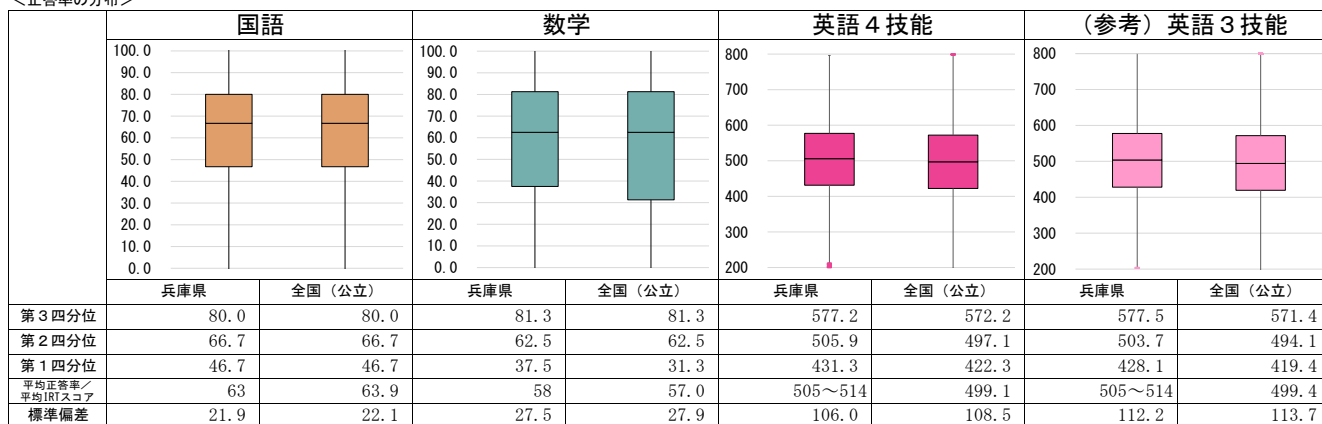
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.5
10	生活習慣	(1) ～ (4)	5.0
11	学習習慣	(23) (25)	4.9
12	読書等	(26) ～ (30)	4.7
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.6
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.8
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.8
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	4.9
17	学びの自己調整	(22) (43)	4.7

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

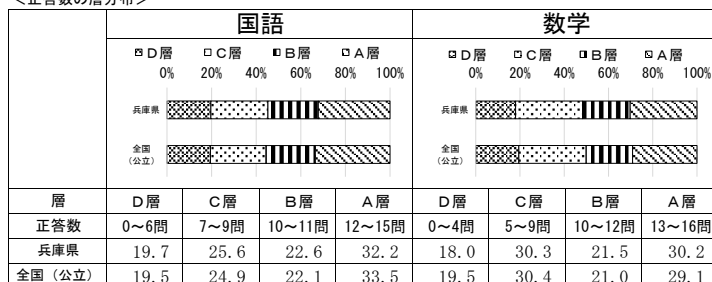
②中学校

<正答率の分布>



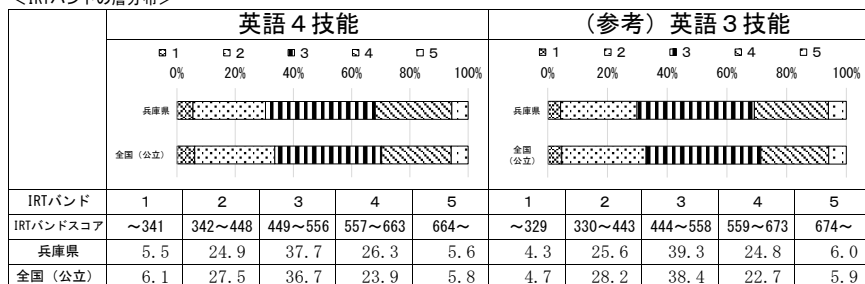
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

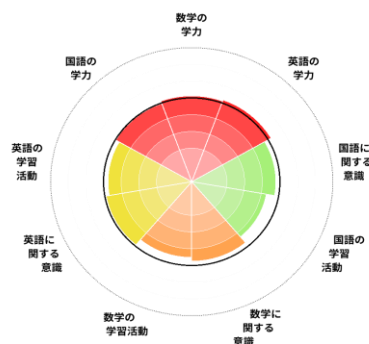


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

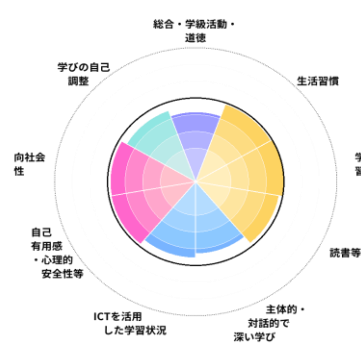
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.0
2	数学の学力		5.1
3	英語の学力		5.2
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.8
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.3
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.7
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.5
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.9
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.7

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.2
11	生活習慣	(1) ～ (4)	4.9
12	学習習慣	(23) (25)	5.0
13	読書等	(26) ～ (30)	4.8
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.3
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.5
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.9
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	4.9
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.5

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

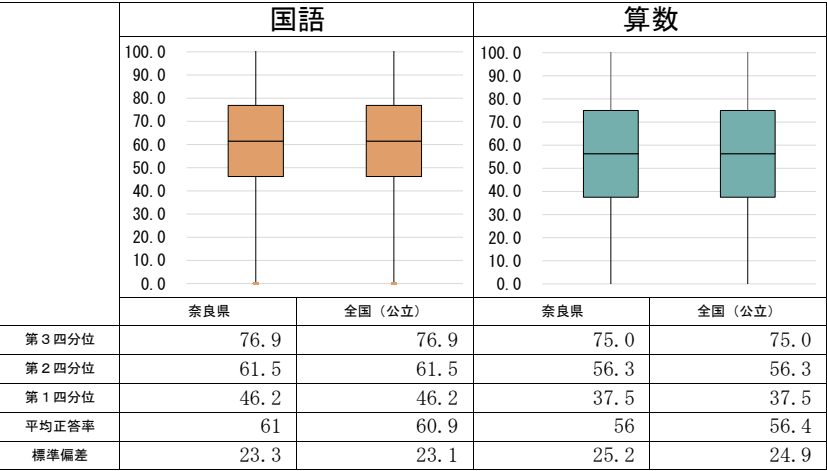
- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

- ・小学校においては、「生活習慣」や「英語の学習活動」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「総合・学級活動・道徳」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、低い結果が出ている（うち、「総合・学級活動・道徳」は、全国と比較しても低い）。
- ・中学校においては、「学習習慣」や「自己有用感・心理的安全性等」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「総合・学級活動・道徳」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、低い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して低い）。

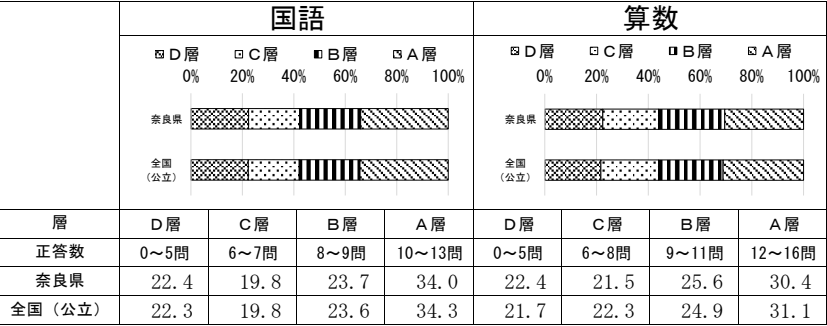
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

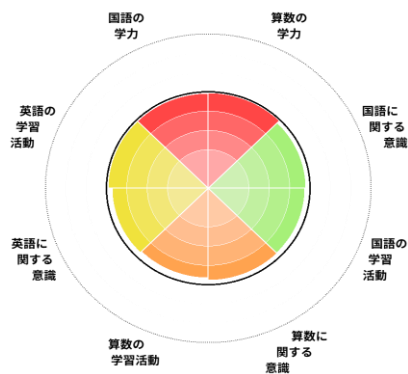


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）

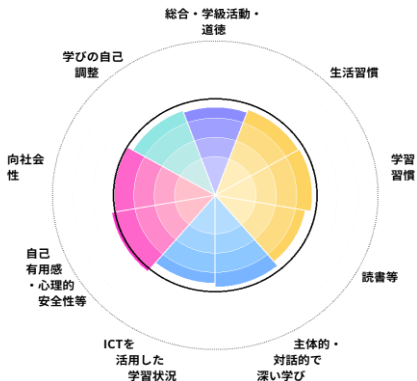


<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.9
2	算数の学力		4.9
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.8
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.7
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.8
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.6
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	4.7
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.9

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



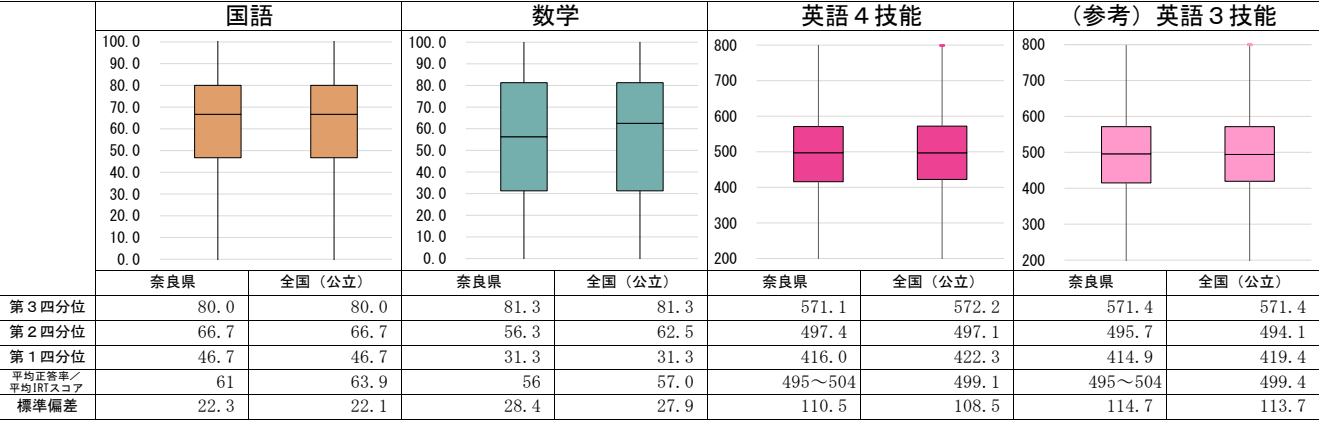
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.6
10	生活習慣	(1) ～ (4)	4.7
11	学習習慣	(23) (25)	4.7
12	読書等	(26) ～ (30)	4.5
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.8
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.6
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.2
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.0
17	学びの自己調整	(22) (43)	4.7

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

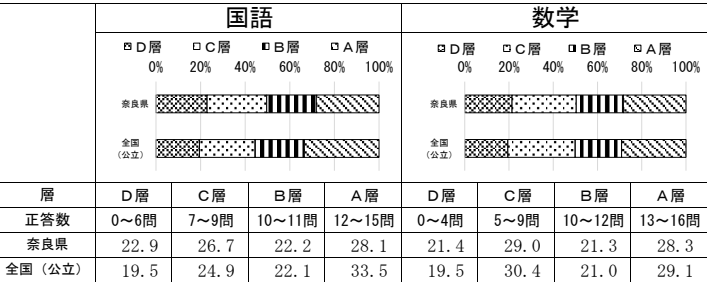
②中学校

<正答率の分布>



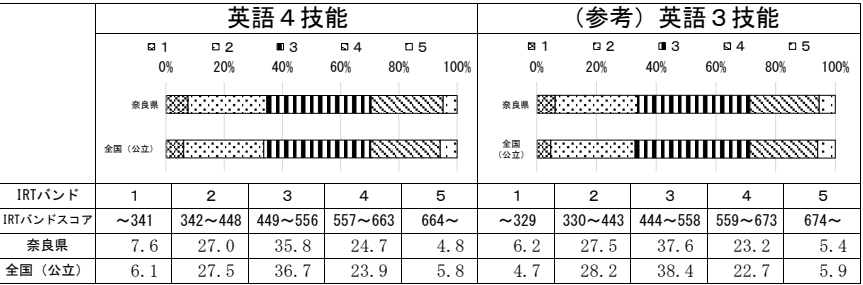
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

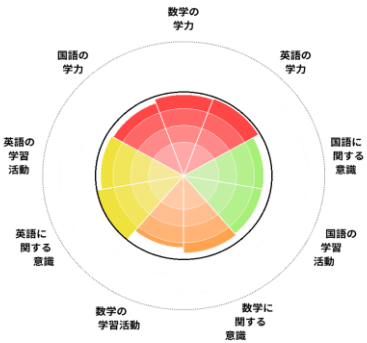


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

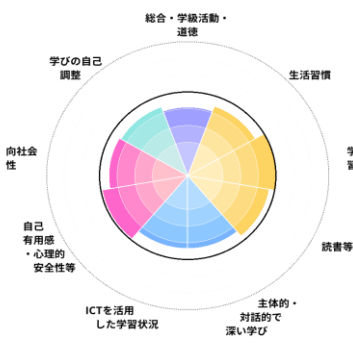
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.6
2	数学の学力		4.9
3	英語の学力		4.9
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.5
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.5
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.6
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.3
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	5.0
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.7

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.1
11	生活習慣	(1) ～ (4)	4.4
12	学習習慣	(23) (25)	5.0
13	読書等	(26) ～ (30)	4.7
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.3
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.3
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.9
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	4.4
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.4

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

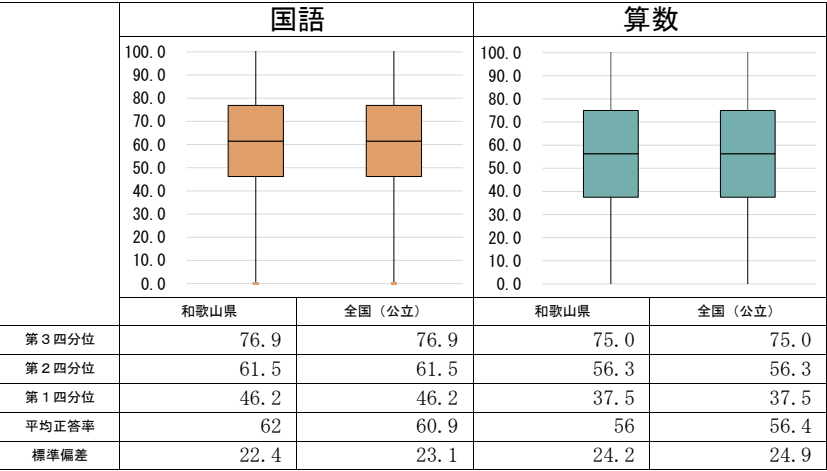
・小学校においては、「自己有用感・心理的安全性等」や「英語の学習活動」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「読書等」や「ICTを活用した学習状況」領域のスコアについて、低い結果が出ている（うち、「読書等」は、全国と比較しても低い）。

・中学校においては、「学習習慣」や「英語に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「総合・学級活動・道徳」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、低い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して低い）。

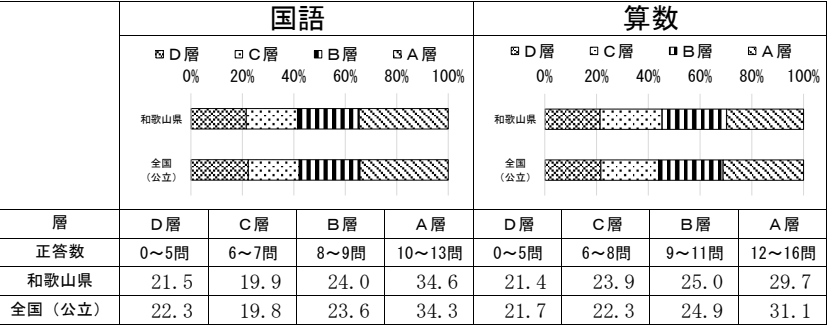
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

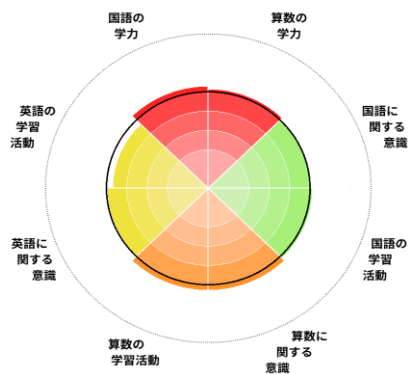


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

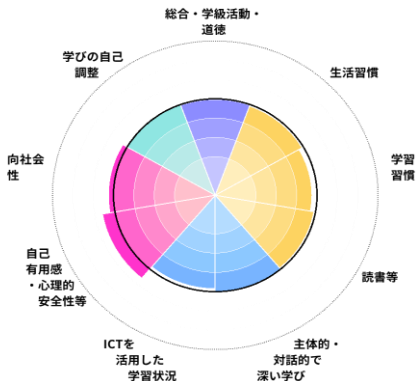
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.3
2	算数の学力		5.1
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.0
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.1
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.3
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.3
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	5.0
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.7

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

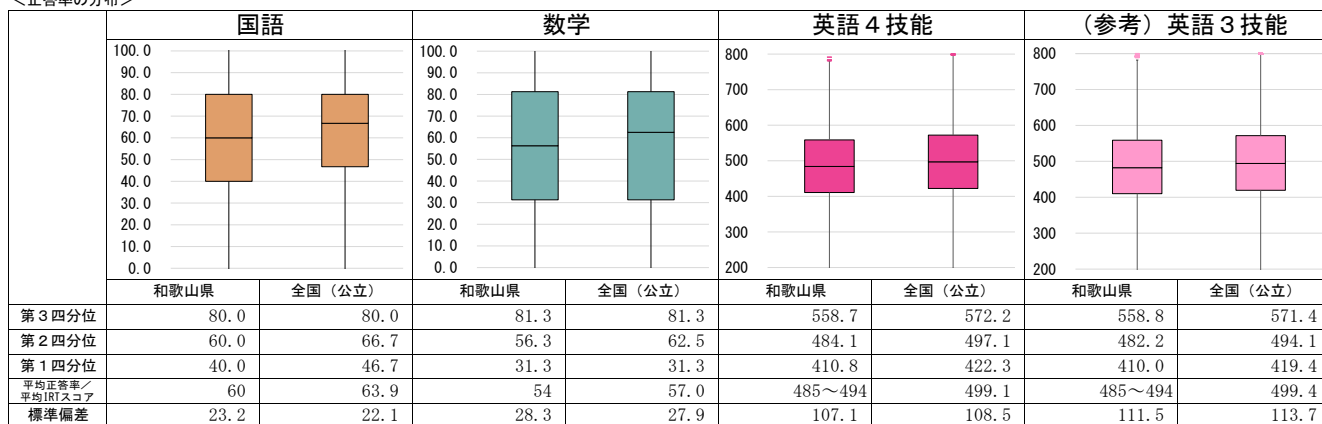
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.9
10	生活習慣	(1) ～ (4)	4.9
11	学習習慣	(23) (25)	4.7
12	読書等	(26) ～ (30)	4.9
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.0
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.9
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.6
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.2
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.0

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

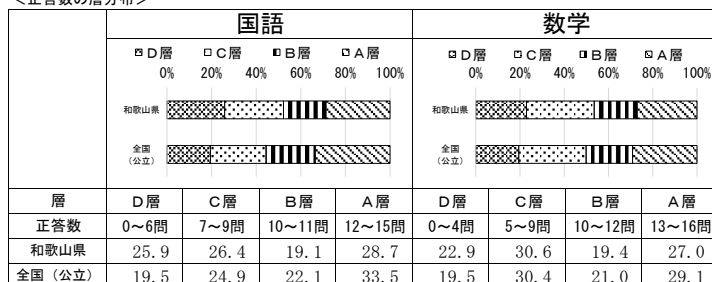
②中学校

<正答率の分布>



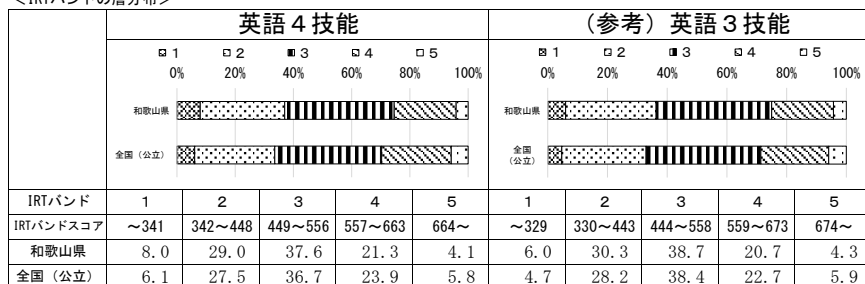
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

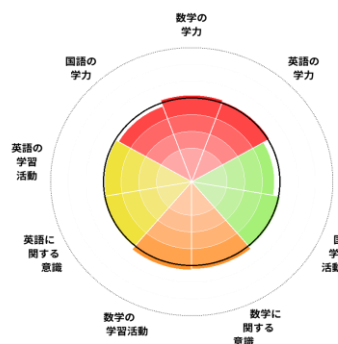


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

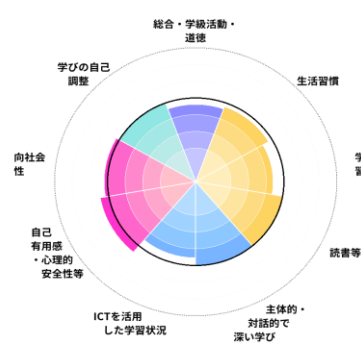
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.8
2	数学の学力		5.2
3	英語の学力		5.1
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.7
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.1
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.2
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.2
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	5.1
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.9

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.6
11	生活習慣	(1) ～ (4)	4.8
12	学習習慣	(23) (25)	4.4
13	読書等	(26) ～ (30)	5.0
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.0
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.5
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.5
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.2
18	学びの自己調整	(22) (43)	5.0

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

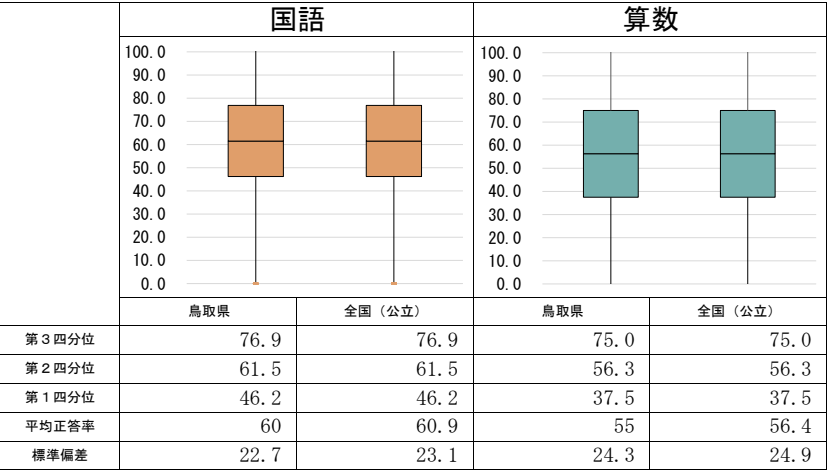
・小学校においては、「自己有用感・心理的安全性等」や「算数に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている（うち、「自己有用感・心理的安全性等」は、全国と比較しても高い）。また、「学習習慣」や「英語の学習活動」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

・中学校においては、「自己有用感・心理的安全性等」や「数学に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている（うち、「自己有用感・心理的安全性等」は、全国と比較しても高い）。また、「学習習慣」や「ICTを活用した学習状況」領域のスコアについて、低い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して低い）。

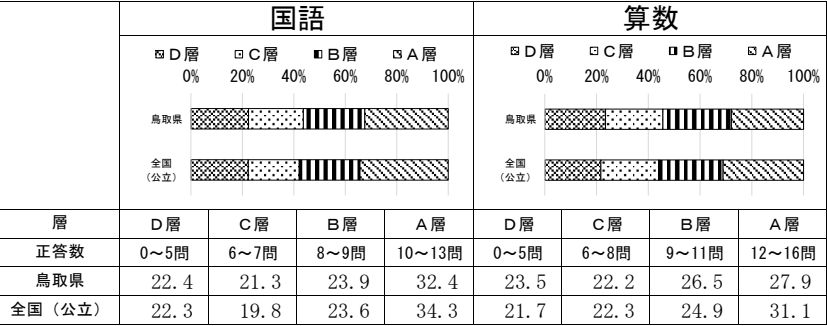
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

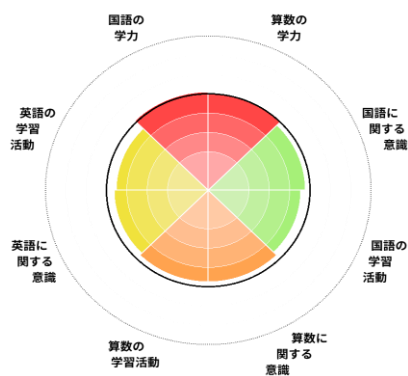


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

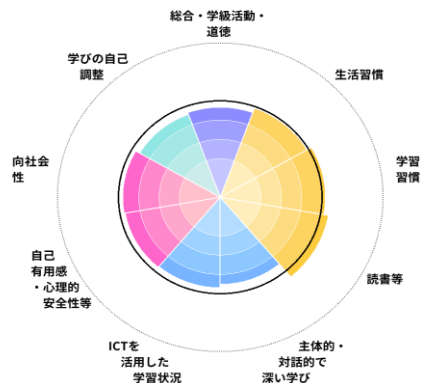
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.1
2	算数の学力		5.0
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.8
4	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	4.5
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.7
6	算数の学習活動	(62) (65) ~ (67)	4.7
7	英語に関する意識	(69) ~ (71)	4.6
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.5

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

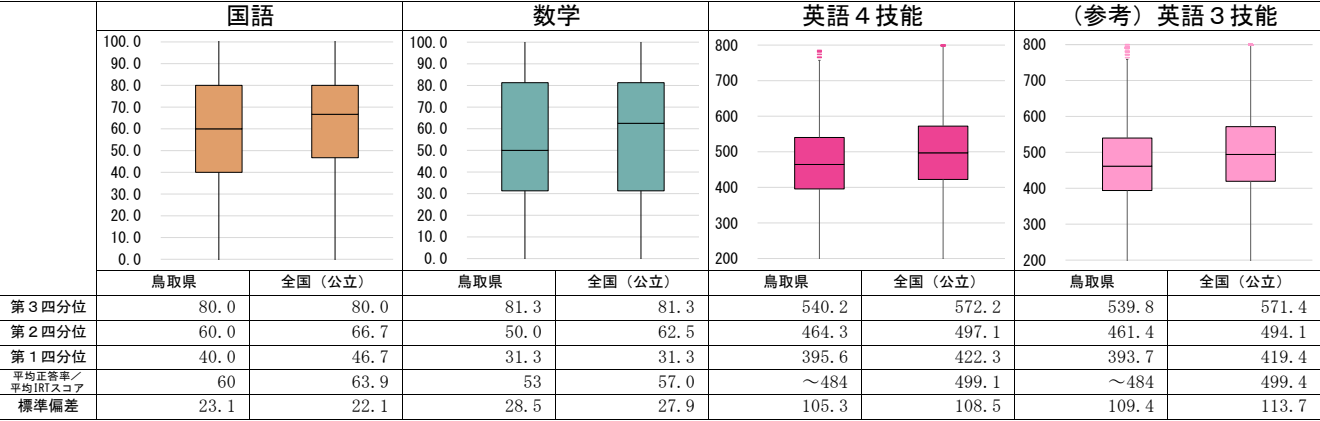
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	4.7
10	生活習慣	(1) ~ (4)	4.9
11	学習習慣	(23) (25)	5.2
12	読書等	(26) ~ (30)	5.4
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	4.5
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	4.7
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.7
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	4.8
17	学びの自己調整	(22) (43)	4.6

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

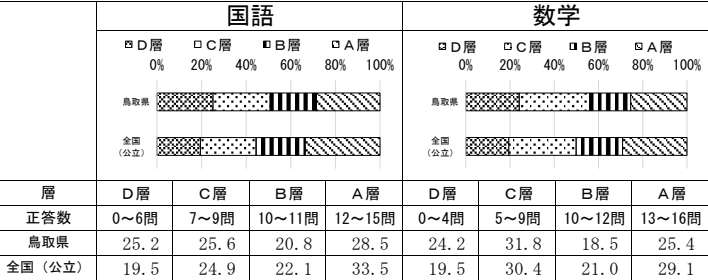
②中学校

<正答率の分布>



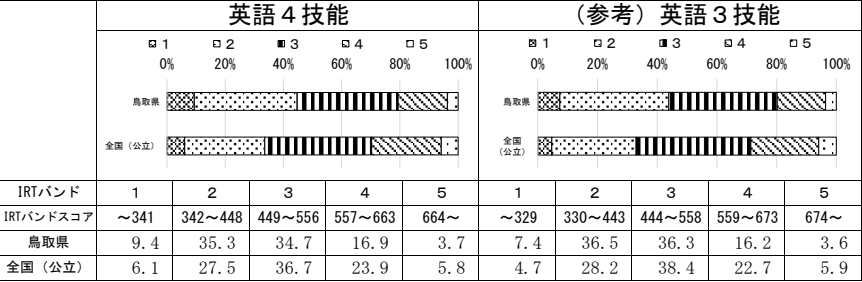
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

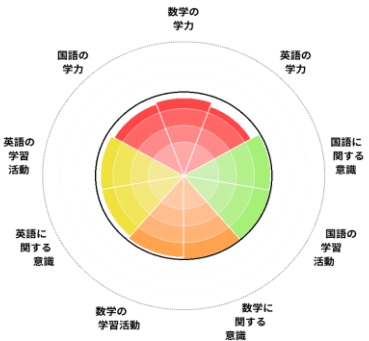


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

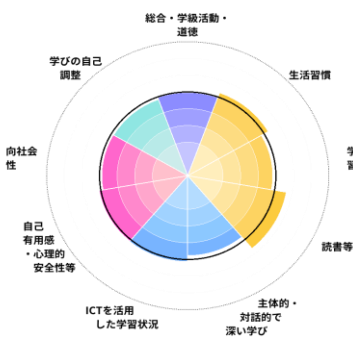
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.6
2	数学の学力		4.6
3	英語の学力		4.4
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.9
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.9
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.0
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.9
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.7
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.7

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	5.0
11	生活習慣	(1) ～ (4)	5.3
12	学習習慣	(23) (25)	4.8
13	読書等	(26) ～ (30)	5.7
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.8
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.1
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.1
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	4.9
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.8

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

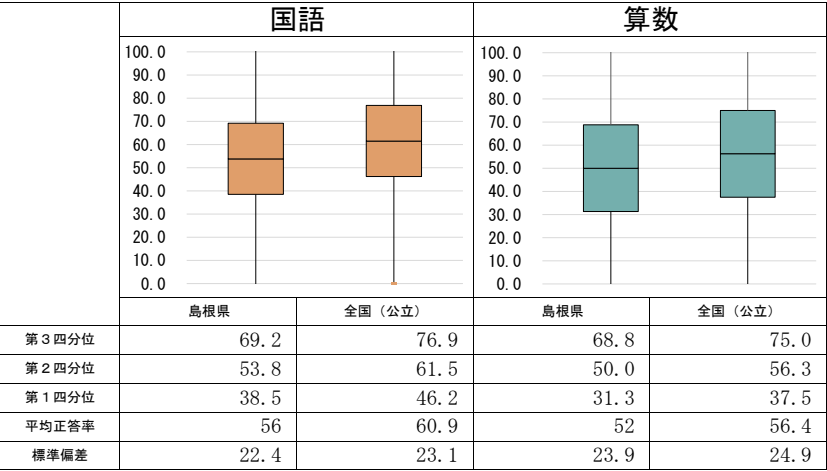
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
 - ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
 - ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「読書等」や「向社会性」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「主体的・対話的で深い学び」や「国語の学習活動」領域のスコアについて、低い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して低い）。
- ・中学校においては、「読書等」や「ICTを活用した学習状況」領域のスコアについて、高い結果が出ている（うち、「読書等」は、全国と比較しても高い）。また、「英語に関する意識」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

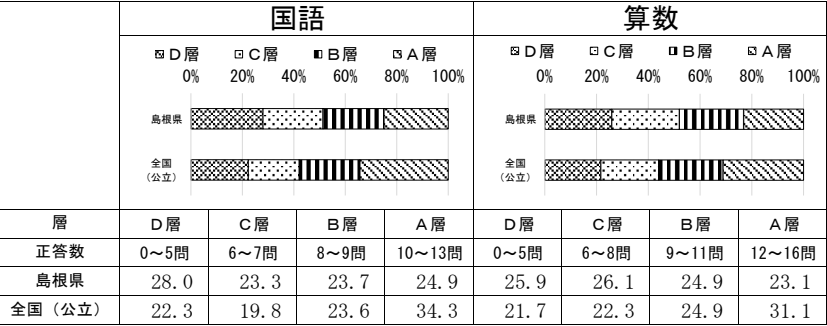
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

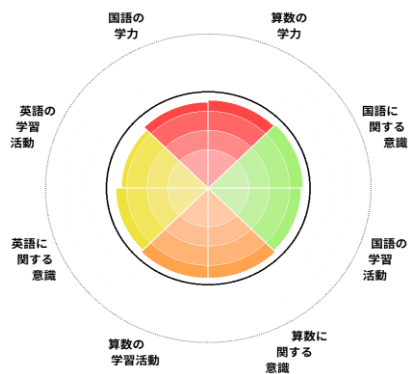


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）

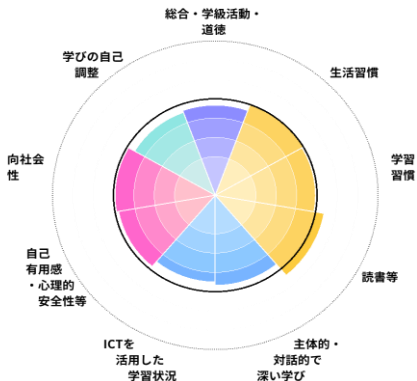


<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.5
2	算数の学力		4.6
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.7
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.6
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.7
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.7
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	4.6
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.3

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



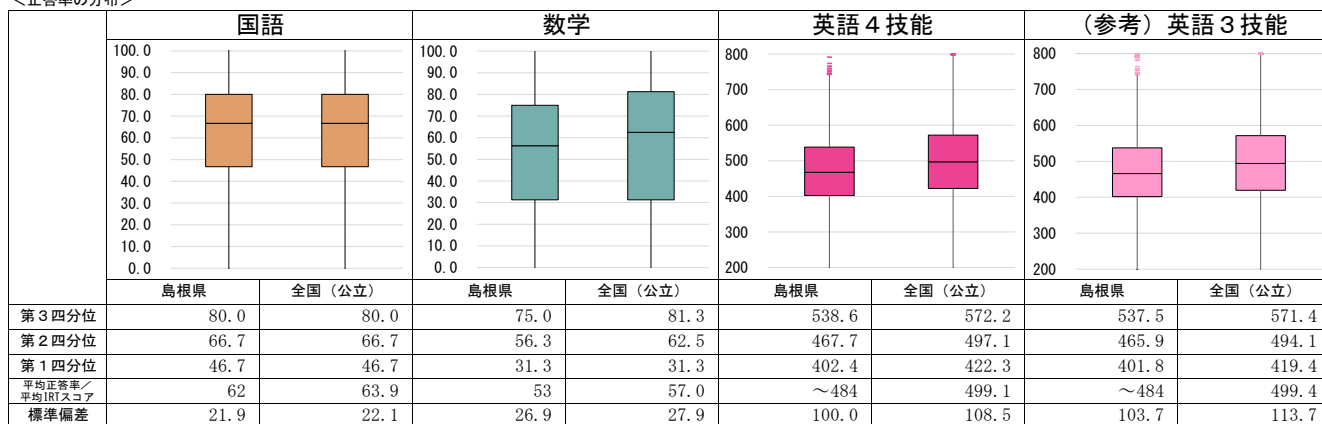
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.7
10	生活習慣	(1) ～ (4)	5.0
11	学習習慣	(23) (25)	4.9
12	読書等	(26) ～ (30)	5.4
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.7
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.5
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.8
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	4.9
17	学びの自己調整	(22) (43)	4.6

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

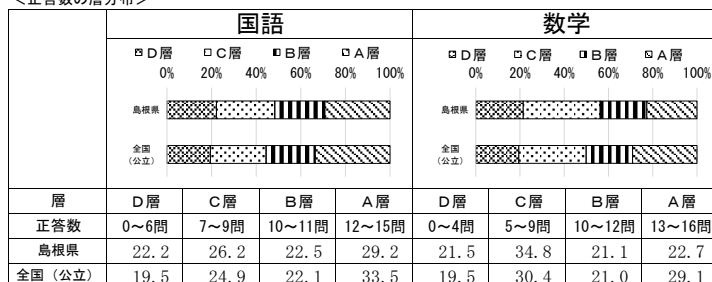
②中学校

<正答率の分布>



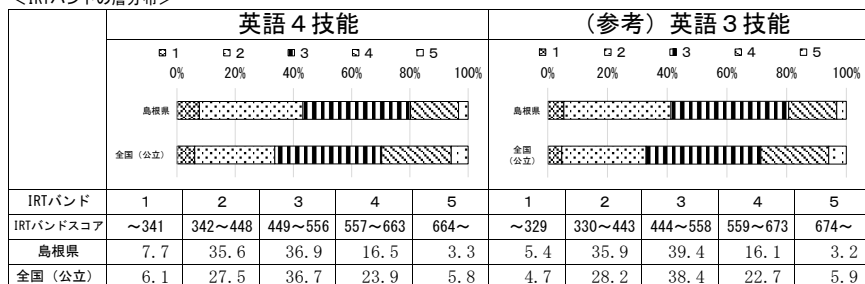
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

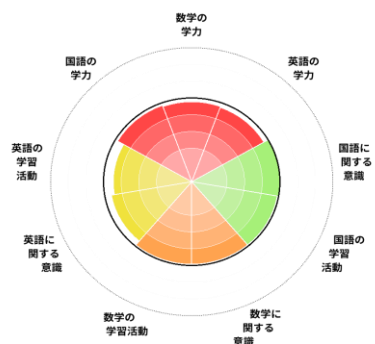


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

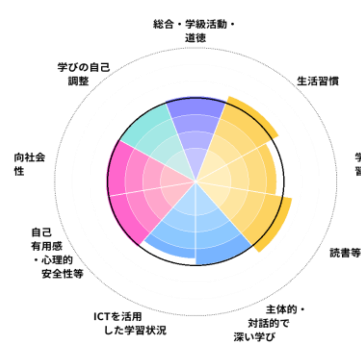
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.9
2	数学の学力		4.8
3	英語の学力		4.7
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.0
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.9
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.9
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.9
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.6
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.4

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	5.1
11	生活習慣	(1) ～ (4)	5.5
12	学習習慣	(23) (25)	4.6
13	読書等	(26) ～ (30)	5.6
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.0
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.6
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.1
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.1
18	学びの自己調整	(22) (43)	5.0

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

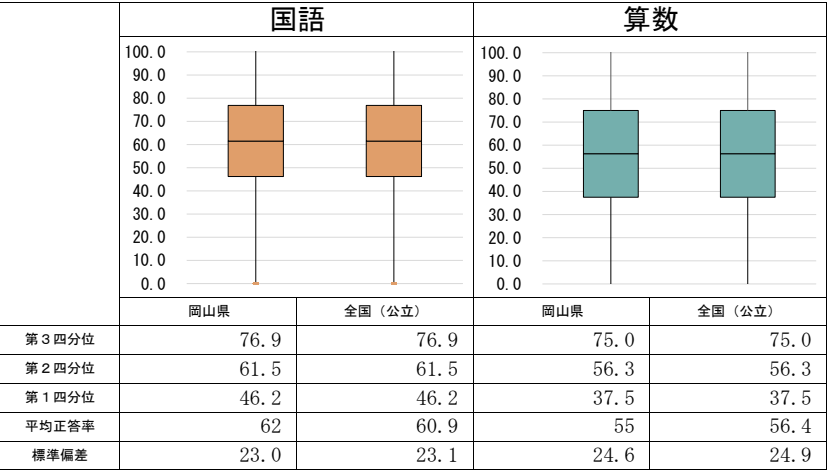
・小学校においては、「読書等」や「向社会性」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「英語の学習活動」や「ICTを活用した学習状況」領域のスコアについて、低い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して低い）。

・中学校においては、「読書等」や「自己有用感・心理的安全性等」領域のスコアについて、高い結果が出ている（うち、「読書等」は、全国と比較しても高い）。また、「英語の学習活動」や「ICTを活用した学習状況」領域のスコアについて、低い結果が出ている（うち、「英語の学習活動」は、全国と比較しても低い）。

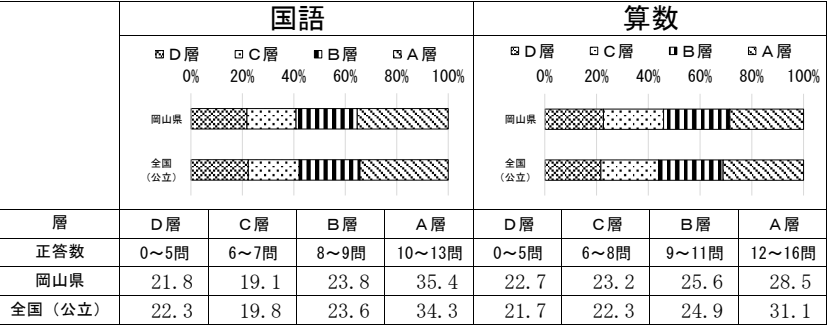
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

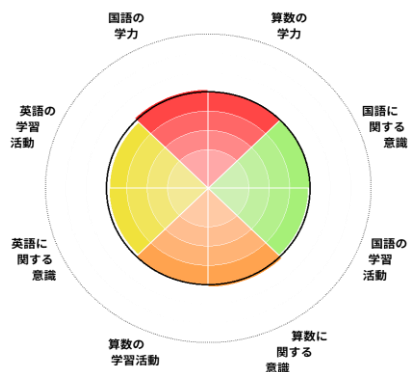


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

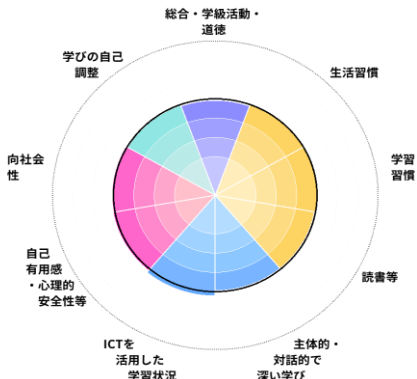
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.1
2	算数の学力		5.0
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.0
4	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	4.9
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.1
6	算数の学習活動	(62) (65) ~ (67)	5.1
7	英語に関する意識	(69) ~ (71)	4.9
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.8

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

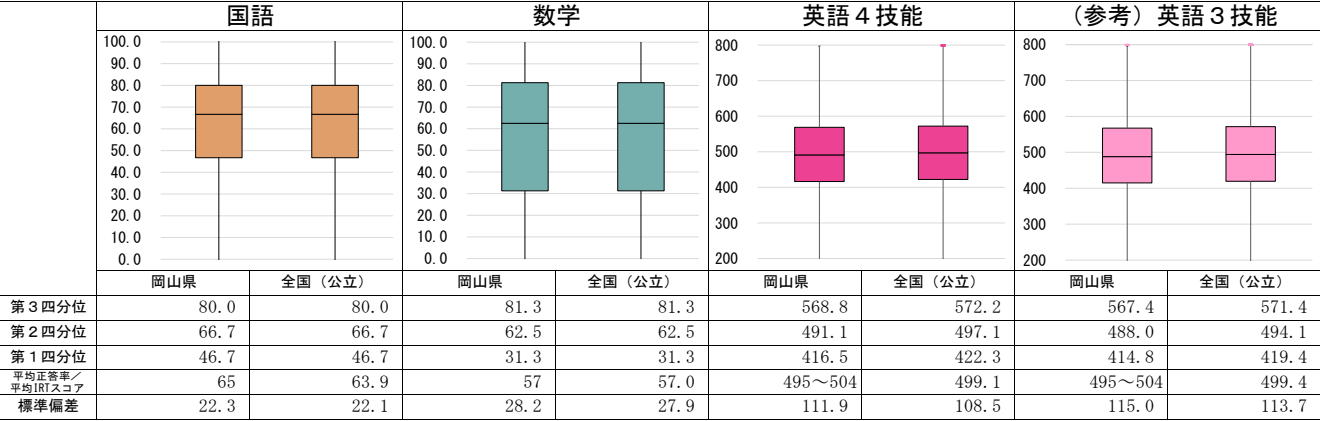
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	4.9
10	生活習慣	(1) ~ (4)	5.0
11	学習習慣	(23) (25)	5.0
12	読書等	(26) ~ (30)	4.9
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	4.9
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	5.2
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.1
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.1
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.0

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

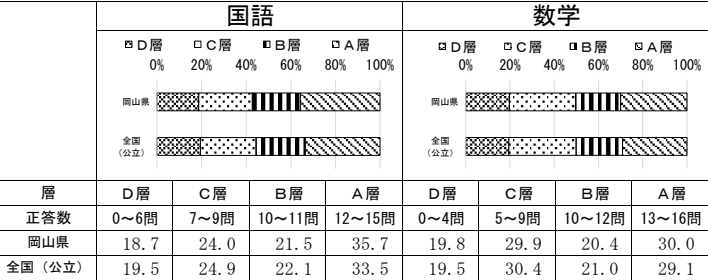
②中学校

<正答率の分布>



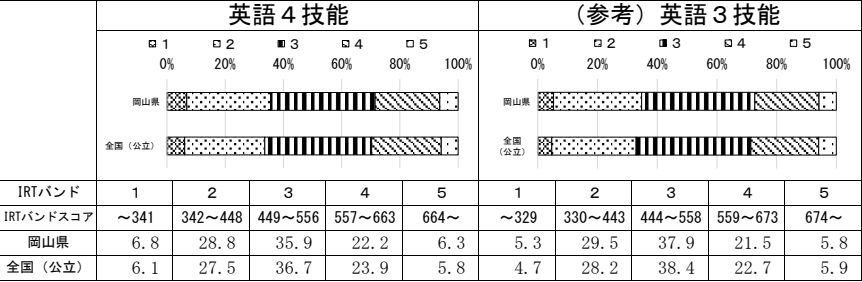
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

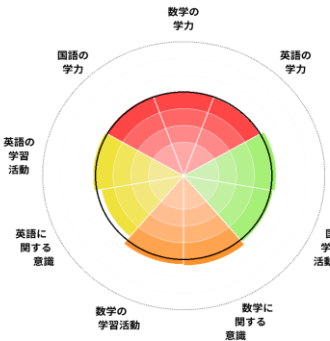


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

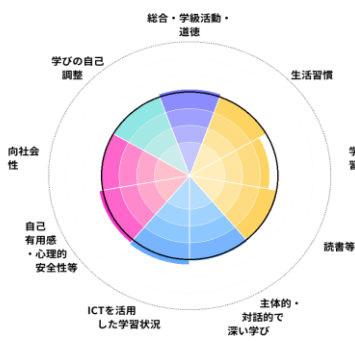
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.1
2	数学の学力		5.0
3	英語の学力		5.0
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.2
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.1
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.4
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.3
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.7
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	5.1

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	5.2
11	生活習慣	(1) ～ (4)	5.0
12	学習習慣	(23) (25)	4.5
13	読書等	(26) ～ (30)	5.0
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.1
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.3
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.2
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.0
18	学びの自己調整	(22) (43)	5.0

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

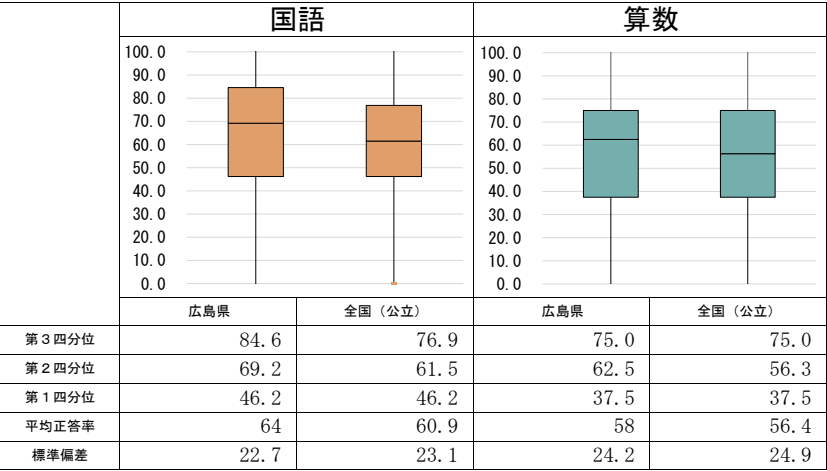
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
 - ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
 - ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「ICTを活用した学習状況」や「自己有用感・心理的安全性等」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「英語の学習活動」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「数学に関する意識」や「ICTを活用した学習状況」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「学習習慣」や「英語に関する意識」領域のスコアについて、低い結果が出ている（うち、「学習習慣」は、全国と比較しても低い）。

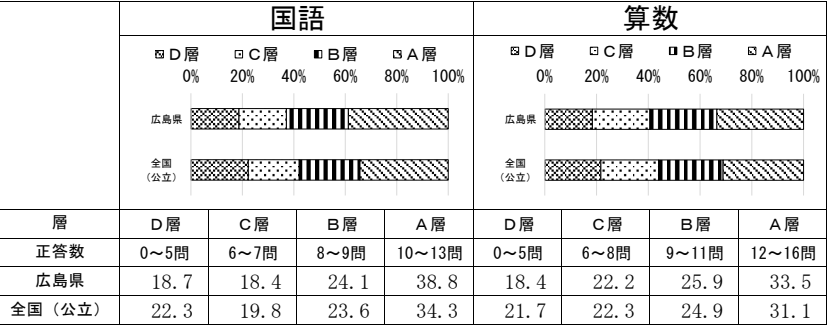
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

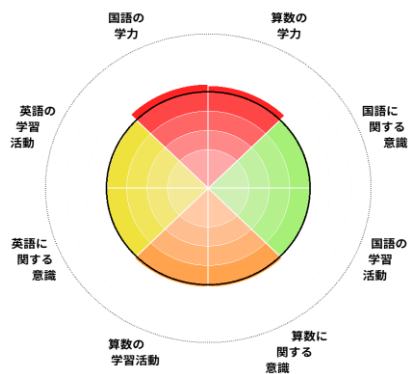


※A～D層は、全国の児童生徒に正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

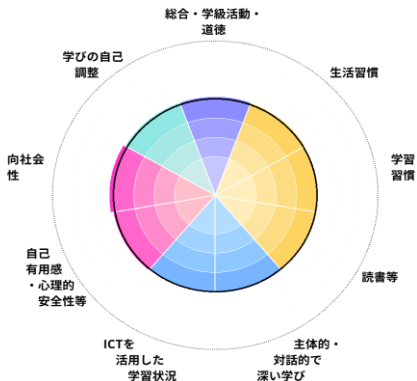
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.4
2	算数の学力		5.3
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.1
4	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	5.0
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.1
6	算数の学習活動	(62) (65) ~ (67)	5.1
7	英語に関する意識	(69) ~ (71)	5.0
8	英語の学習活動	(72) (73)	5.0

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

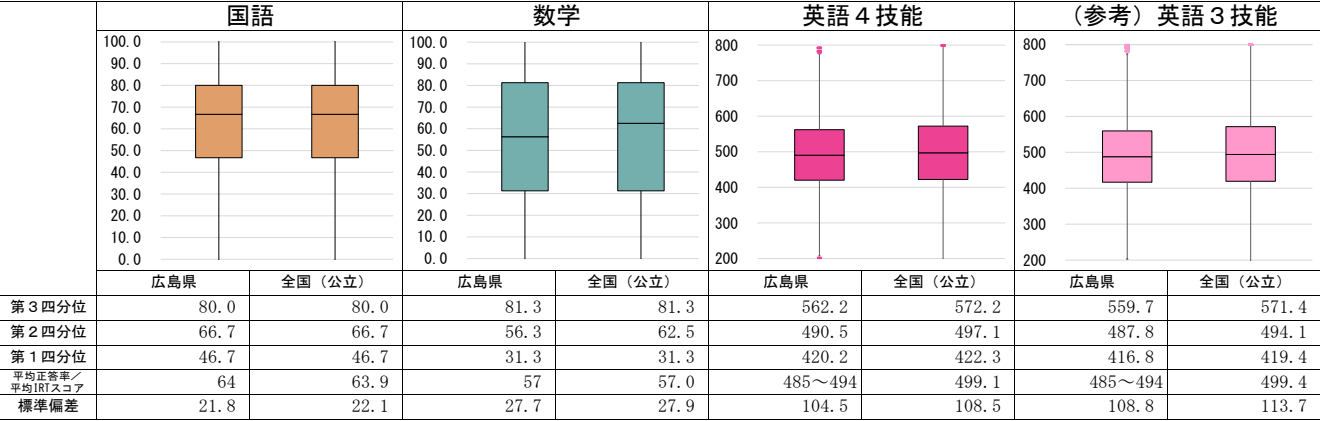
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	5.1
10	生活習慣	(1) ~ (4)	5.1
11	学習習慣	(23) (25)	5.0
12	読書等	(26) ~ (30)	5.0
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	5.1
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	5.0
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.1
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.2
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.1

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

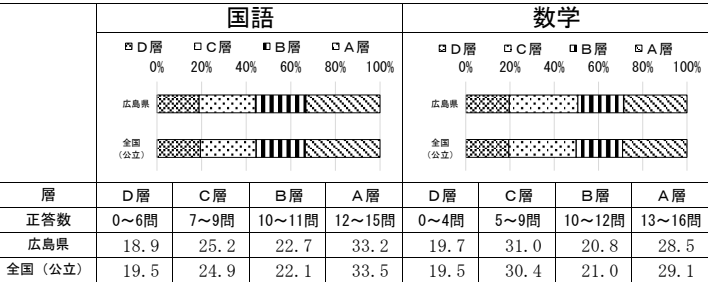
②中学校

<正答率の分布>



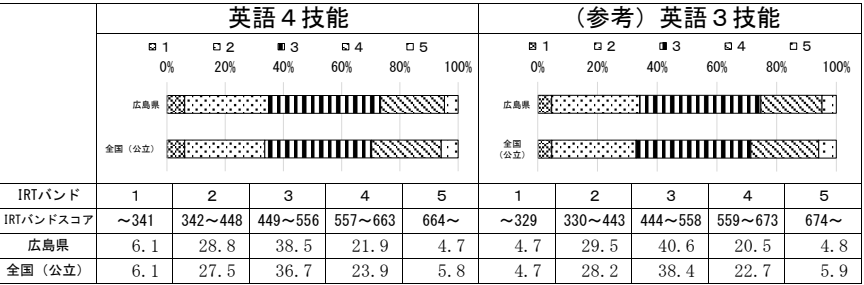
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

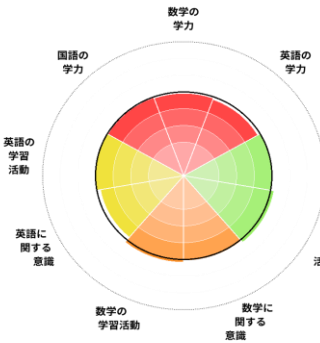


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

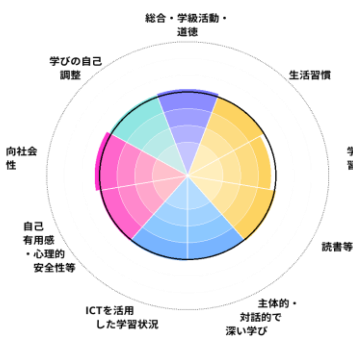
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.0
2	数学の学力		4.9
3	英語の学力		4.8
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.0
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.2
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.1
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.2
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.8
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	5.0

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	5.2
11	生活習慣	(1) ～ (4)	5.0
12	学習習慣	(23) (25)	4.7
13	読書等	(26) ～ (30)	5.1
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.0
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.1
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.1
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.3
18	学びの自己調整	(22) (43)	5.1

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

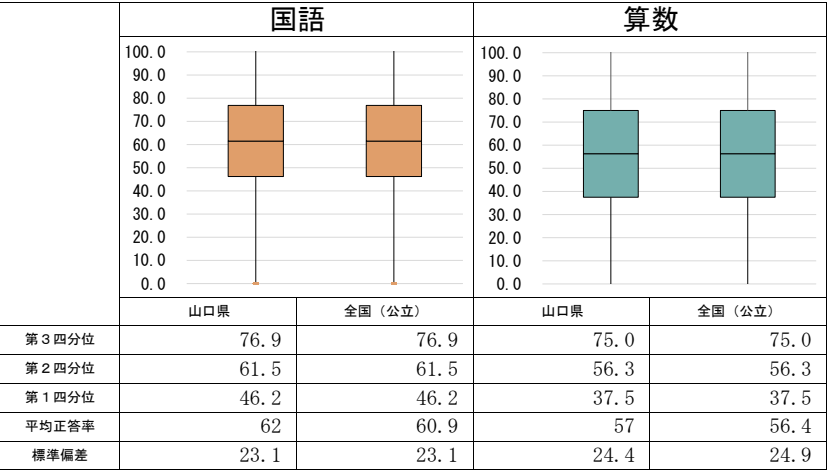
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「向社会性」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「ICTを活用した学習状況」や「学習習慣」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「向社会性」や「総合・学級活動・道徳」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「学習習慣」や「英語に関する意識」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

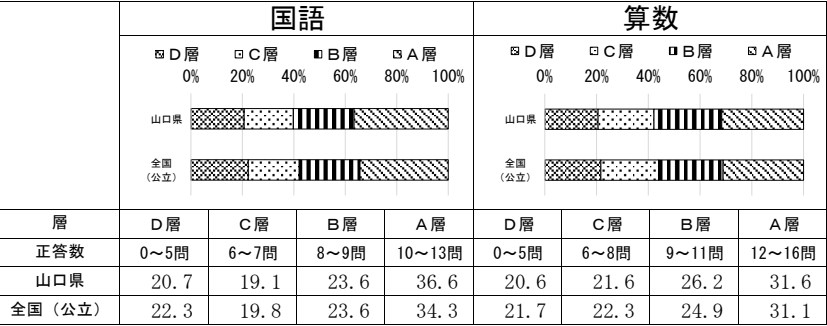
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

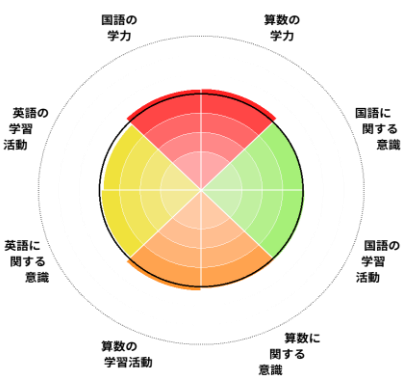


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）

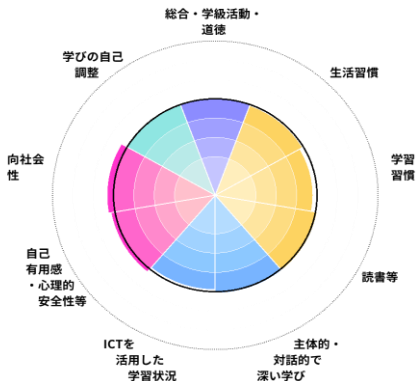


<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.2
2	算数の学力		5.3
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.0
4	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	5.1
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.1
6	算数の学習活動	(62) (65) ~ (67)	5.2
7	英語に関する意識	(69) ~ (71)	4.9
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.8

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



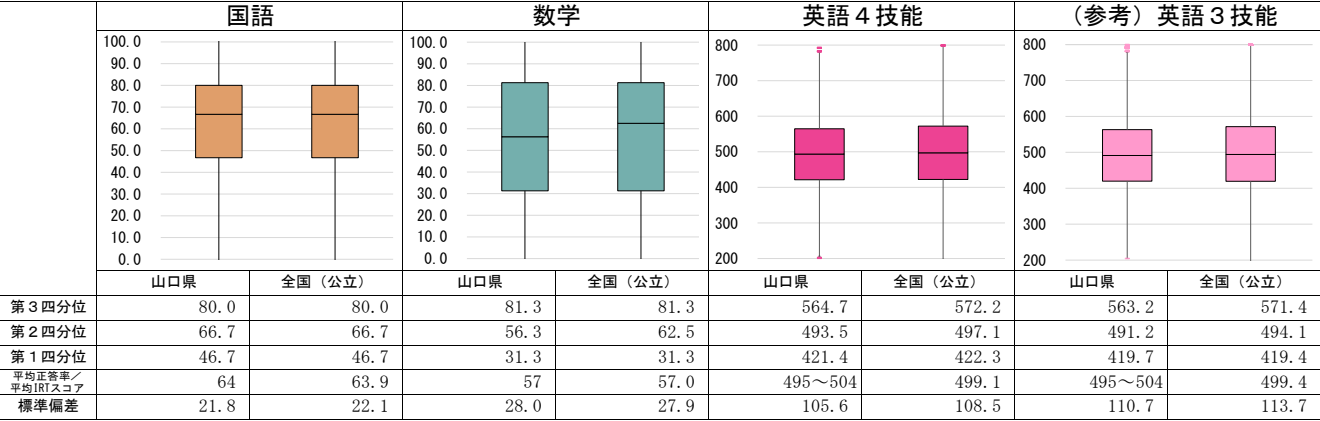
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	5.0
10	生活習慣	(1) ~ (4)	4.9
11	学習習慣	(23) (25)	4.8
12	読書等	(26) ~ (30)	5.1
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	5.1
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	4.9
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.2
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.3
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.0

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

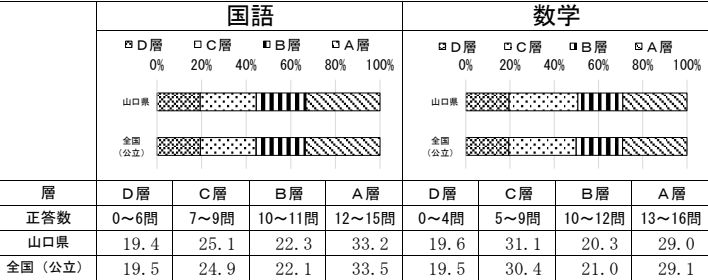
②中学校

<正答率の分布>



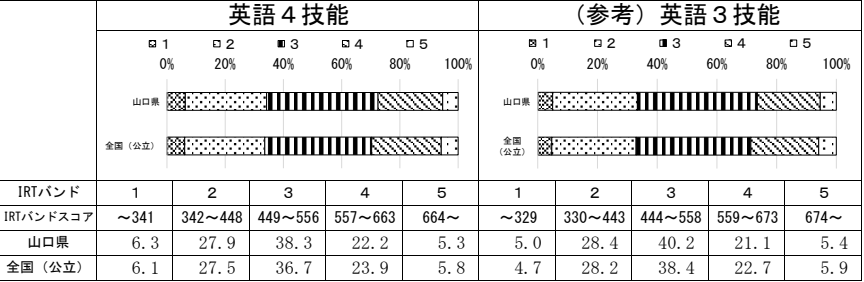
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

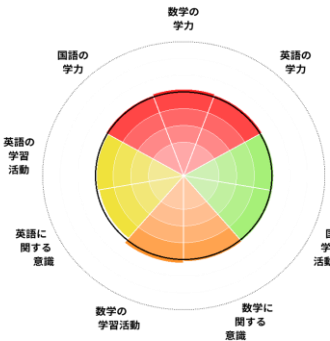


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

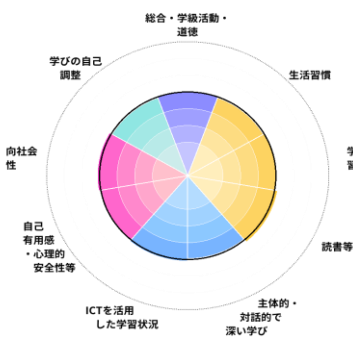
<結果チャート>

※全国平均 (5.0) を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.1
2	数学の学力		5.2
3	英語の学力		5.1
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.1
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.1
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.1
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.2
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.9
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.9

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等) の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	5.0
11	生活習慣	(1) ～ (4)	4.9
12	学習習慣	(23) (25)	5.0
13	読書等	(26) ～ (30)	5.2
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.9
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.1
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.0
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.1
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.9

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

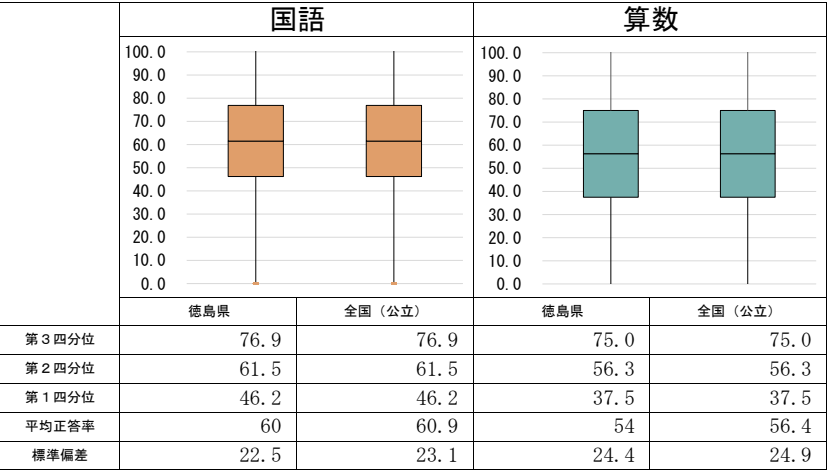
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
 - ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
 - ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「向社会性」や「算数の学習活動」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「学習習慣」や「英語の学習活動」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「読書等」や「数学の学習活動」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「主体的・対話的で深い学び」や「生活習慣」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

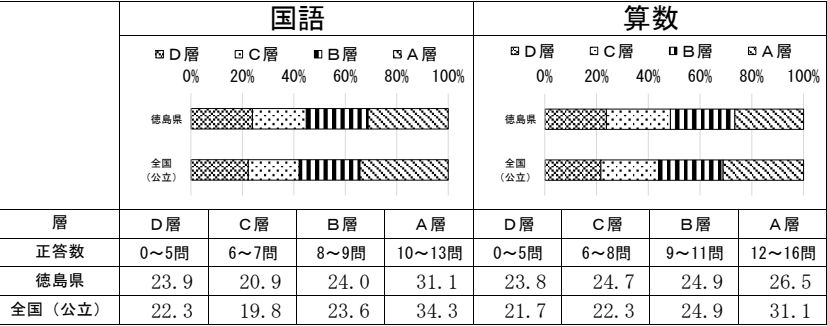
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

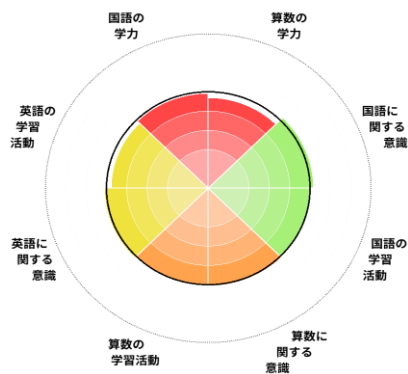


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

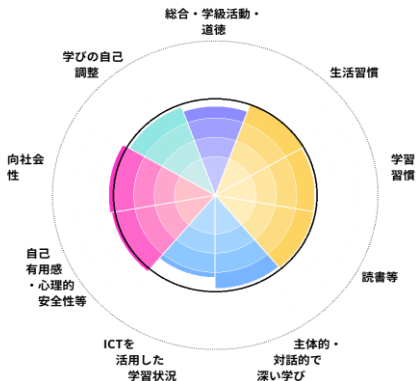
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.9
2	算数の学力		4.7
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.2
4	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	5.0
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.1
6	算数の学習活動	(62) (65) ~ (67)	5.0
7	英語に関する意識	(69) ~ (71)	5.1
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.8

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

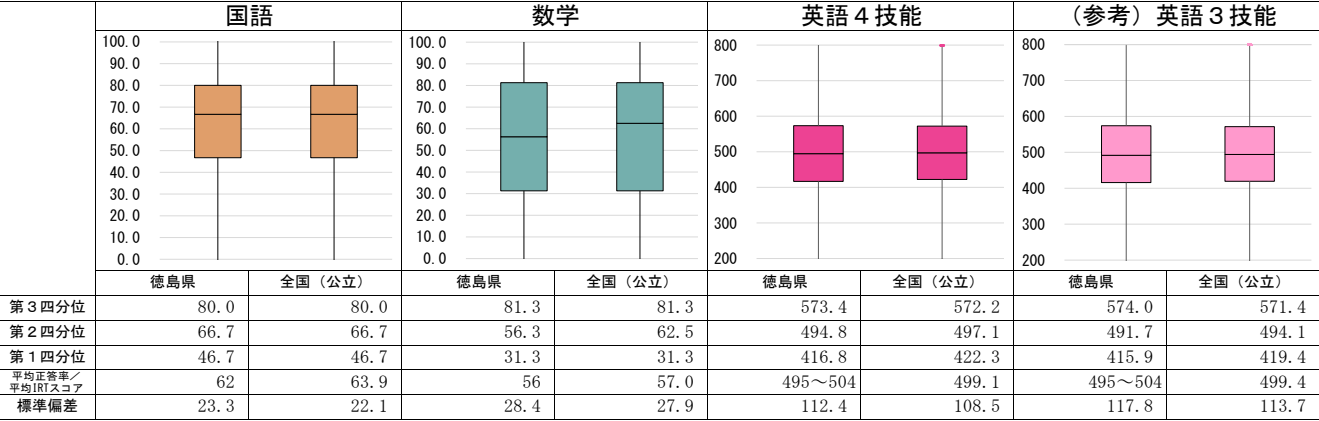
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	4.6
10	生活習慣	(1) ~ (4)	5.0
11	学習習慣	(23) (25)	4.9
12	読書等	(26) ~ (30)	4.9
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	4.8
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	4.3
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.2
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.2
17	学びの自己調整	(22) (43)	4.9

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

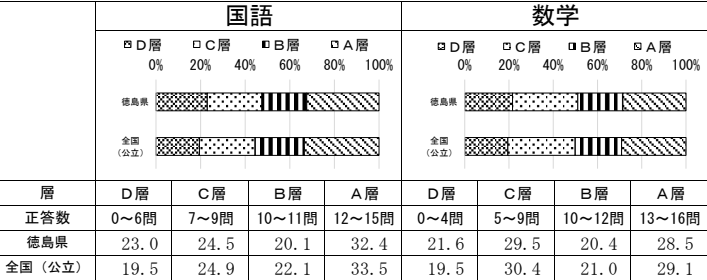
②中学校

＜正答率の分布＞



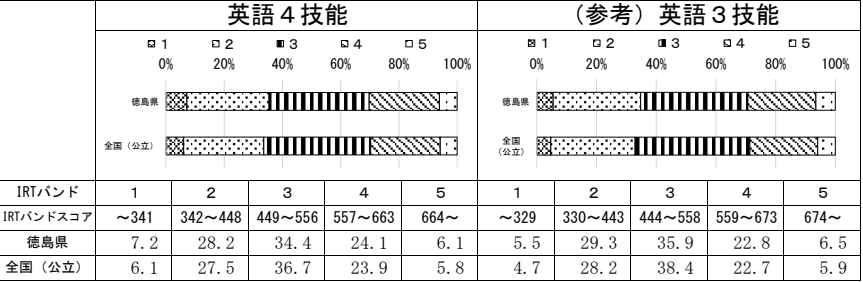
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

＜正答数の層分布＞



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

＜IRTバンドの層分布＞

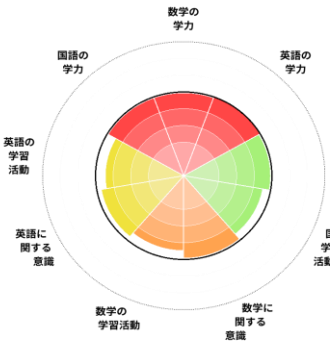


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

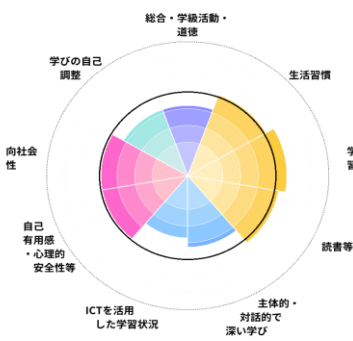
＜結果チャート＞

※全国平均 (5.0) を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)]
(全国基準)



＜令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.9
2	数学の学力		4.9
3	英語の学力		5.1
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.9
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.5
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.9
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.5
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.7
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.4

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

＜令和8年度その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等) の領域名と生徒質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.2
11	生活習慣	(1) ～ (4)	5.1
12	学習習慣	(23) (25)	5.6
13	読書等	(26) ～ (30)	5.2
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.3
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	3.7
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.9
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	4.9
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.2

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

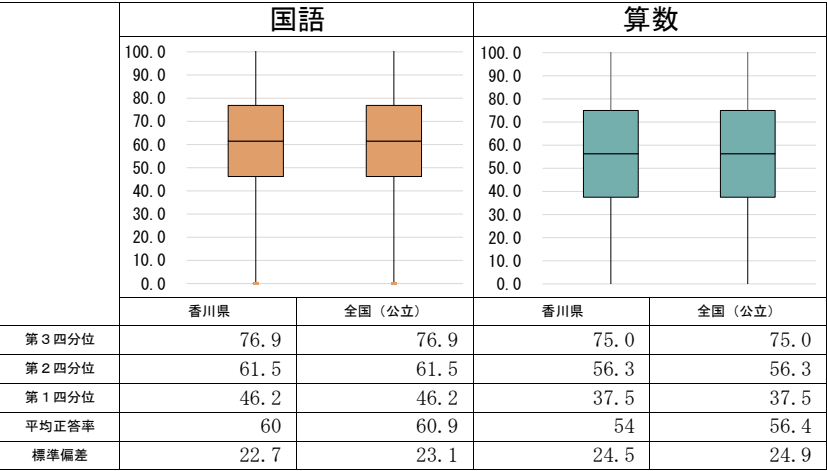
・小学校においては、「自己有用感・心理的安全性等」や「国語に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「ICTを活用した学習状況」や「総合・学級活動・道徳」領域のスコアについて、低い結果が出ている（うち、「ICTを活用した学習状況」は、全国と比較しても低い）。

・中学校においては、「学習習慣」や「自己有用感・心理的安全性等」領域のスコアについて、高い結果が出ている（うち、「学習習慣」は、全国と比較しても高い）。また、「ICTを活用した学習状況」や「学びの自己調整」領域のスコアについて、低い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して低い）。

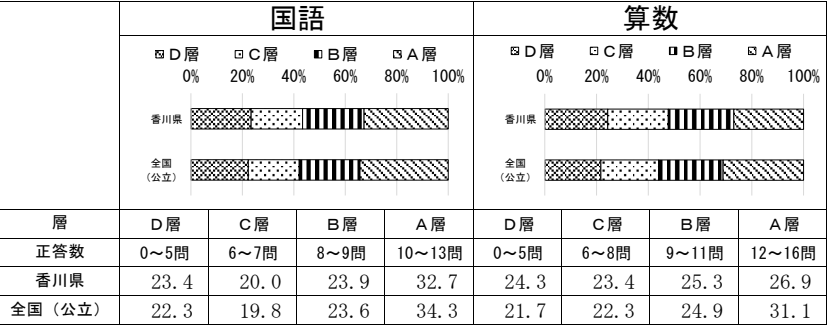
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

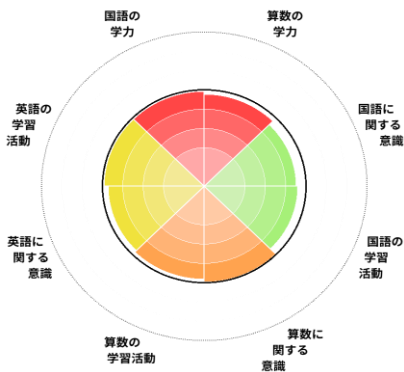


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

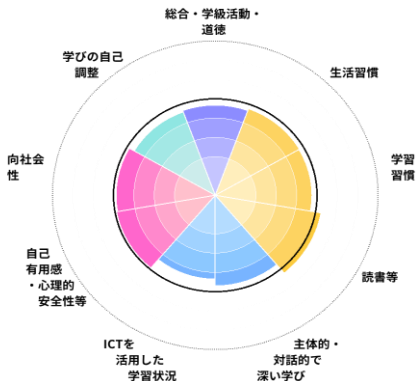
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.9
2	算数の学力		4.8
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.5
4	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	4.6
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.0
6	算数の学習活動	(62) (65) ~ (67)	4.8
7	英語に関する意識	(69) ~ (71)	4.7
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.9

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

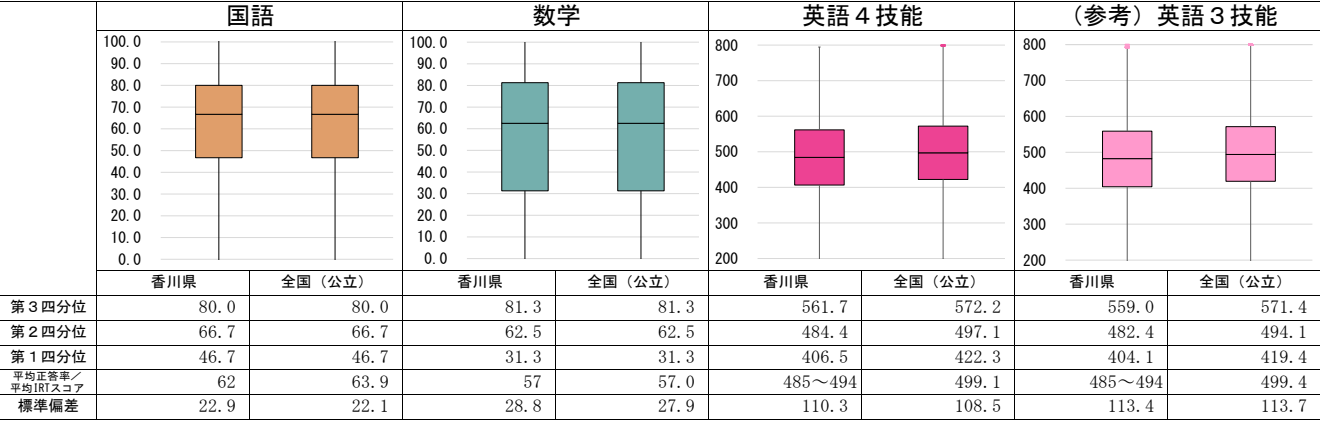
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	4.7
10	生活習慣	(1) ~ (4)	4.8
11	学習習慣	(23) (25)	4.7
12	読書等	(26) ~ (30)	5.3
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	4.7
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	4.3
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.9
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	4.9
17	学びの自己調整	(22) (43)	4.6

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

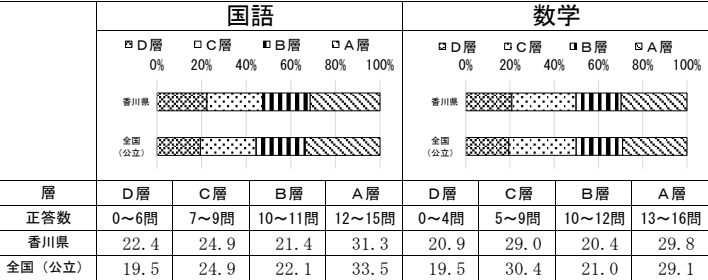
②中学校

<正答率の分布>



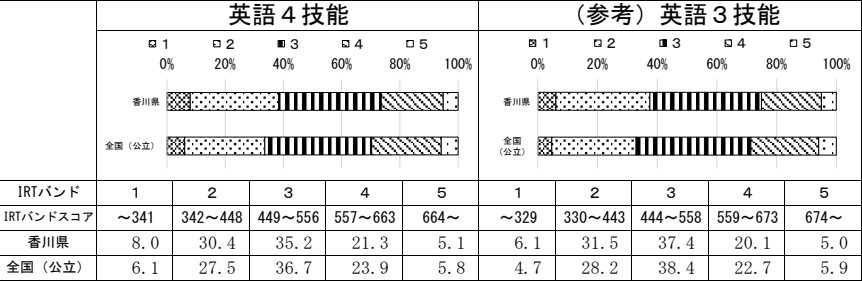
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

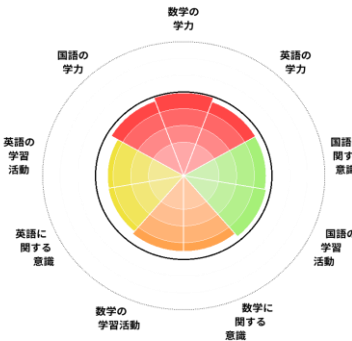


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

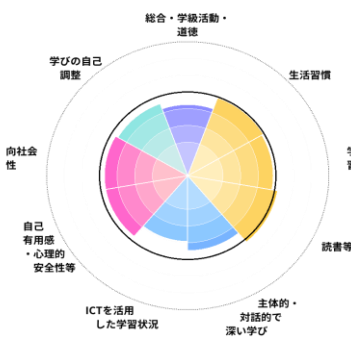
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.7
2	数学の学力		4.9
3	英語の学力		4.7
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.7
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.7
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.5
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.5
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.3
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.3

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.2
11	生活習慣	(1) ～ (4)	4.9
12	学習習慣	(23) (25)	4.8
13	読書等	(26) ～ (30)	5.2
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.5
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	3.9
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.7
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	4.7
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.6

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

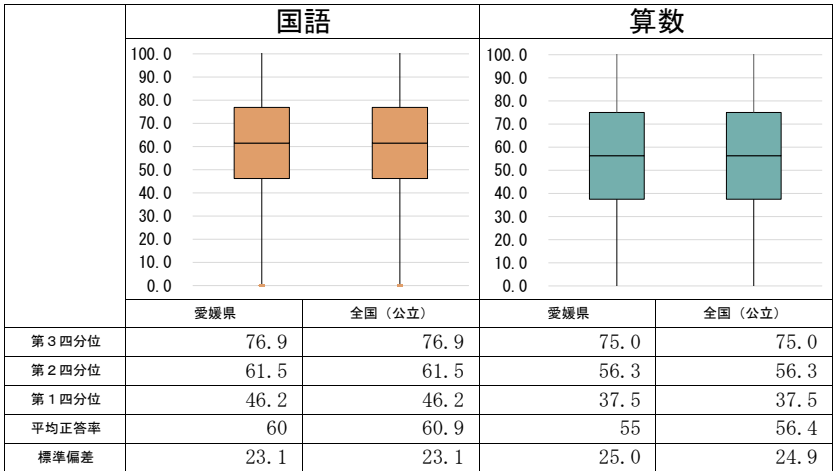
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「読書等」や「算数に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「ICTを活用した学習状況」や「国語に関する意識」領域のスコアについて、低い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して低い）。
- ・中学校においては、「読書等」や「自己有用感・心理的安全性等」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「ICTを活用した学習状況」や「総合・学級活動・道徳」領域のスコアについて、低い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して低い）。

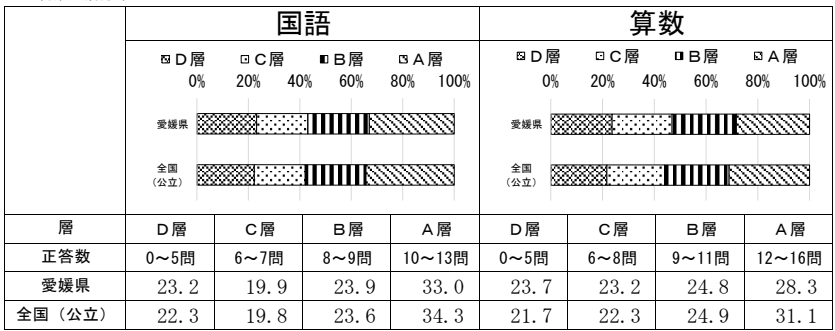
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

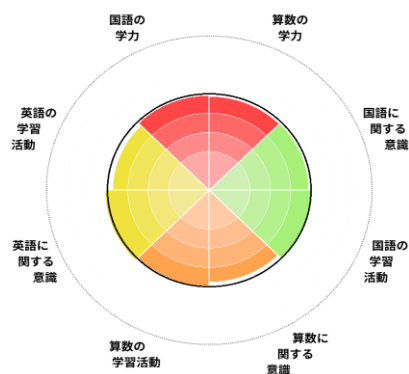


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

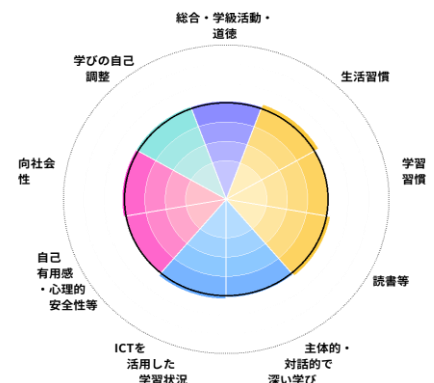
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.9
2	算数の学力		4.9
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.9
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.0
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.8
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.0
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	5.1
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.7

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

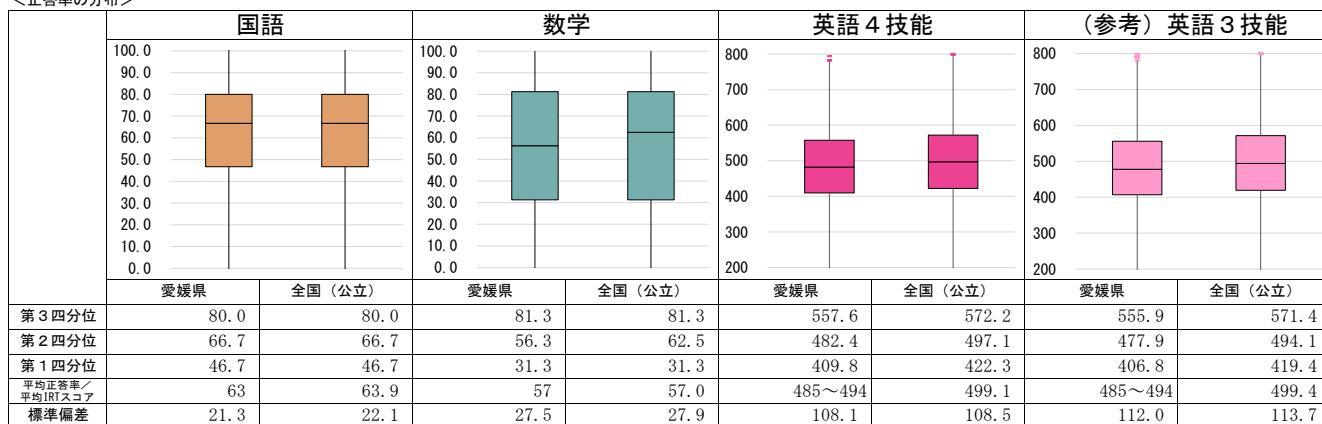
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	5.1
10	生活習慣	(1) ～ (4)	5.2
11	学習習慣	(23) (25)	5.0
12	読書等	(26) ～ (30)	5.2
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.1
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.2
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.0
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.1
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.1

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

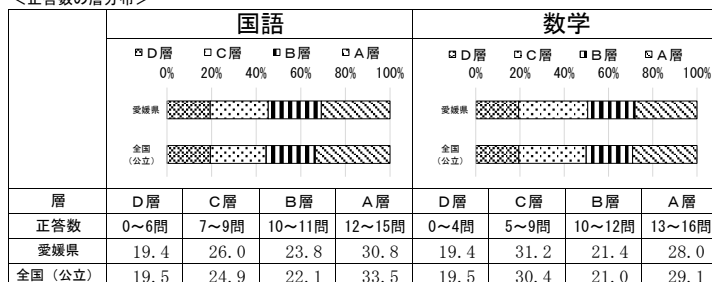
②中学校

<正答率の分布>



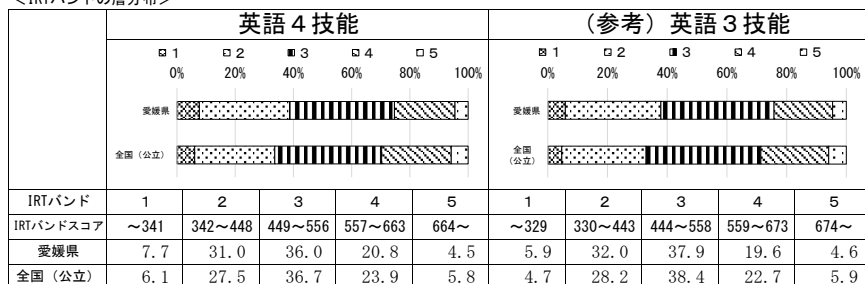
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

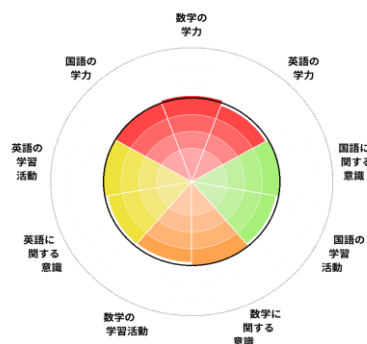


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

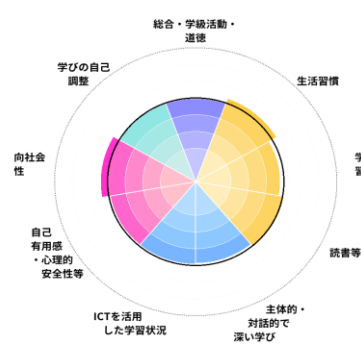
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.1
2	数学の学力		5.1
3	英語の学力		4.8
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.0
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.8
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.0
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.8
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.8
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	5.1

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.9
11	生活習慣	(1) ～ (4)	5.3
12	学習習慣	(23) (25)	4.8
13	読書等	(26) ～ (30)	5.1
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.9
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.9
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.9
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.4
18	学びの自己調整	(22) (43)	5.0

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

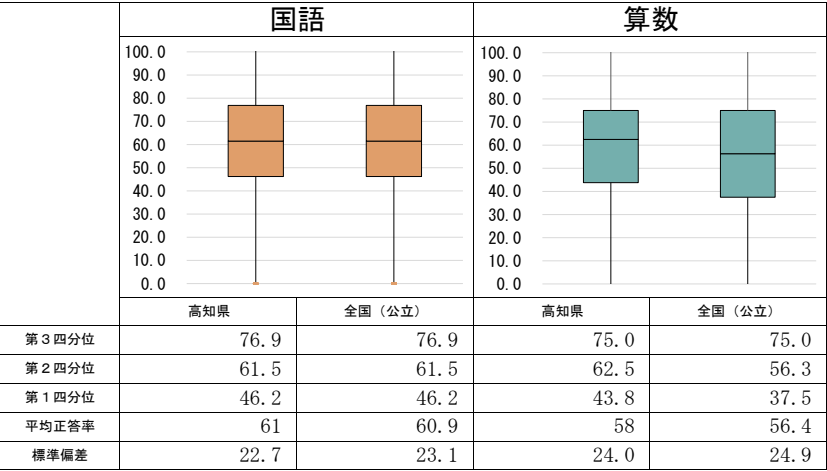
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
 - ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
 - ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「ICTを活用した学習状況」や「読書等」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「英語の学習活動」や「算数に関する意識」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「向社会性」や「生活習慣」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「学習習慣」や「国語の学習活動」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

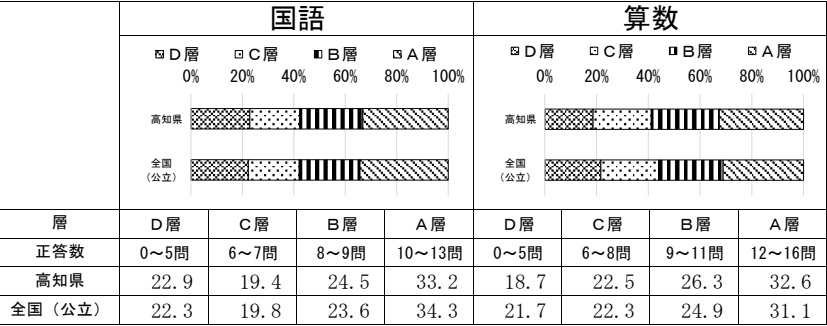
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

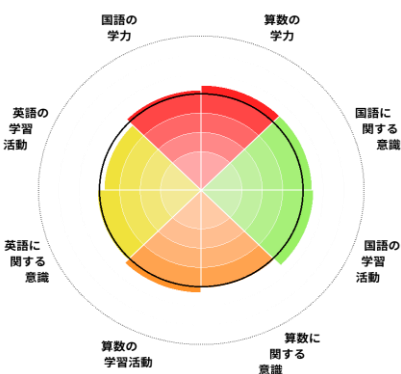


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

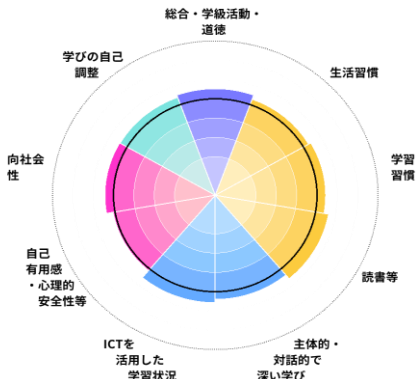
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.2
2	算数の学力		5.4
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.4
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.5
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.1
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.3
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	5.1
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.8

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

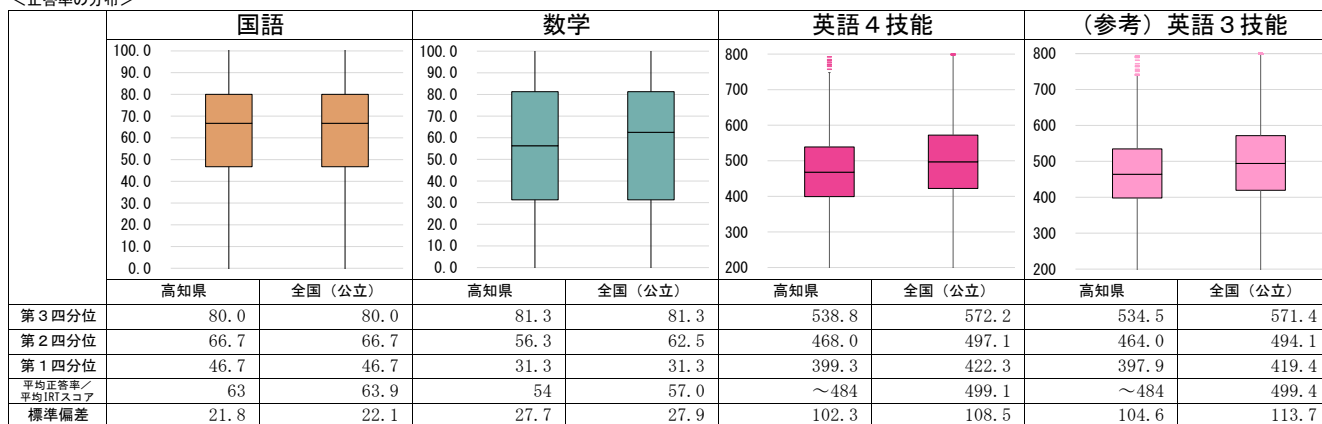
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	5.5
10	生活習慣	(1) ～ (4)	5.3
11	学習習慣	(23) (25)	5.4
12	読書等	(26) ～ (30)	5.6
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.4
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.6
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.1
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.4
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.4

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

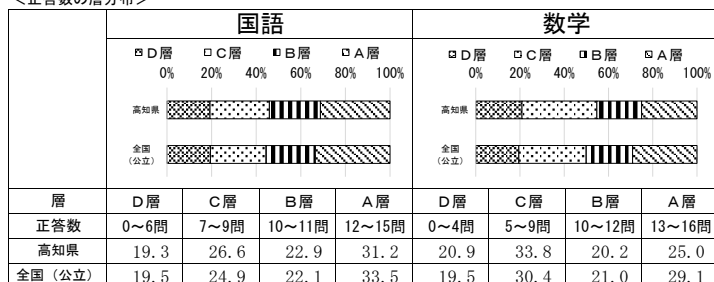
②中学校

<正答率の分布>



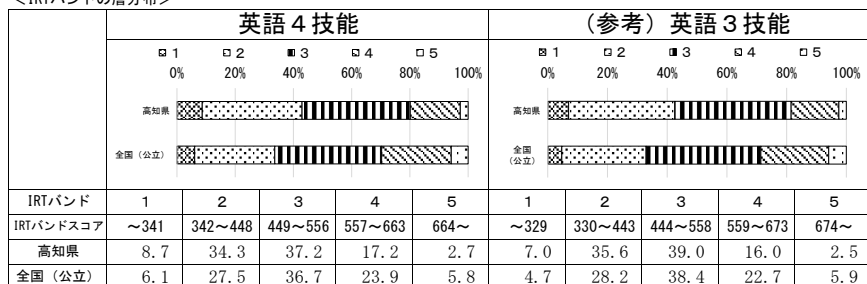
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

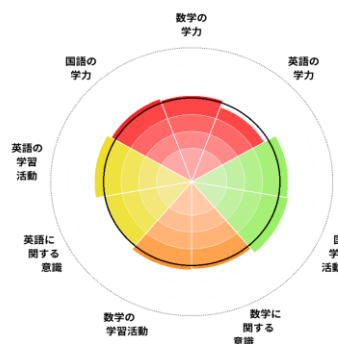


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

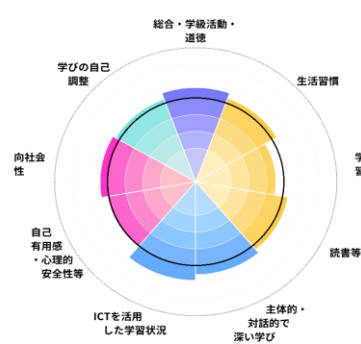
<結果チャート>

※全国平均 (5.0) を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.3
2	数学の学力		5.1
3	英語の学力		4.7
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.5
5	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	5.5
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.2
7	数学の学習活動	(62) (65) ~ (67)	5.3
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	5.0
9	英語の学習活動	(71) (74) ~ (76) (78) ~ (80)	5.5

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等) の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	5.6
11	生活習慣	(1) ~ (4)	5.3
12	学習習慣	(23) (25)	4.5
13	読書等	(26) ~ (30)	5.3
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	5.6
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	5.9
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.1
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.4
18	学びの自己調整	(22) (43)	5.2

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

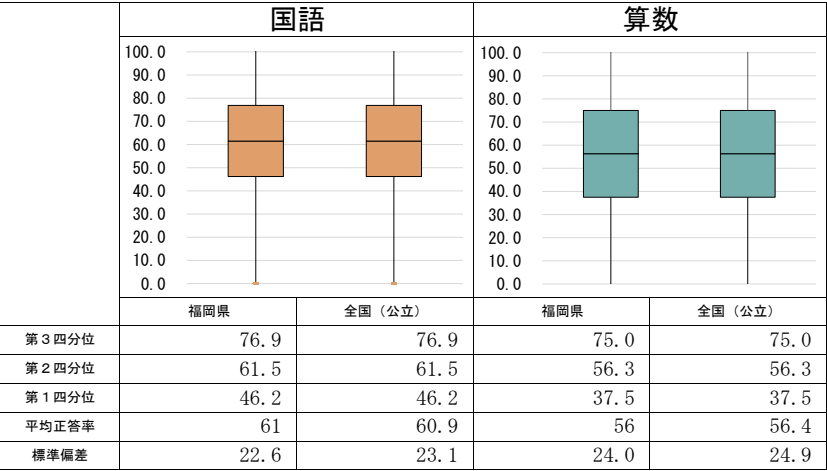
・小学校においては、「ICTを活用した学習状況」や「読書等」領域のスコアについて、高い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して高い）。また、「英語の学習活動」や「自己有用感・心理的安全性等」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

・中学校においては、「ICTを活用した学習状況」や「総合・学級活動・道徳」領域のスコアについて、高い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して高い）。また、「学習習慣」や「英語に関する意識」領域のスコアについて、低い結果が出ている（うち、「学習習慣」は、全国と比較しても低い）。

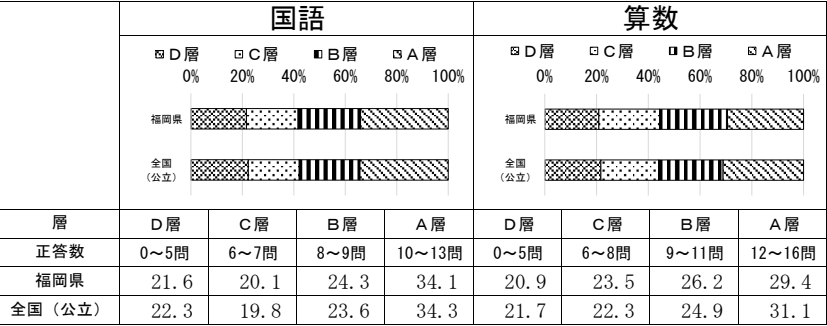
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

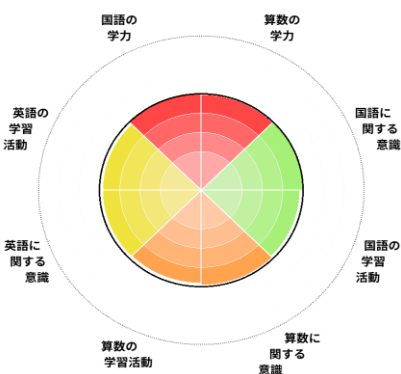


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

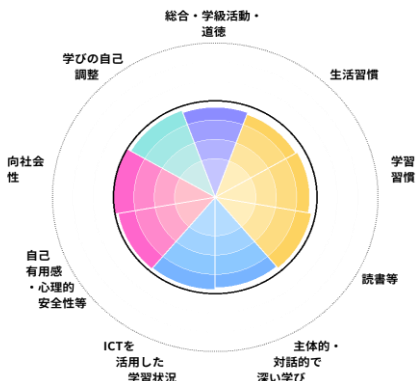
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.0
2	算数の学力		5.0
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.0
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.8
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.9
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.8
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	4.8
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.9

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

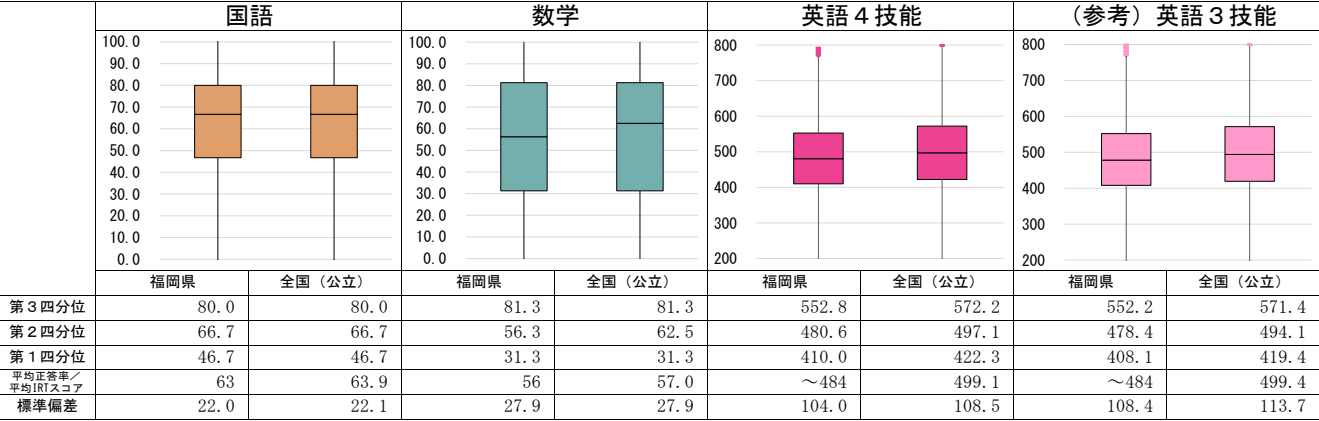
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.7
10	生活習慣	(1) ～ (4)	4.6
11	学習習慣	(23) (25)	4.6
12	読書等	(26) ～ (30)	4.8
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.7
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.8
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.8
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.0
17	学びの自己調整	(22) (43)	4.8

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

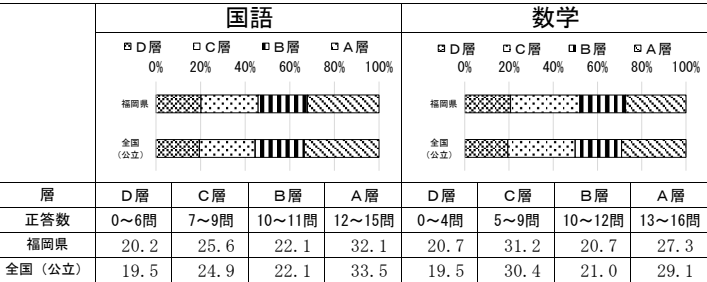
②中学校

<正答率の分布>



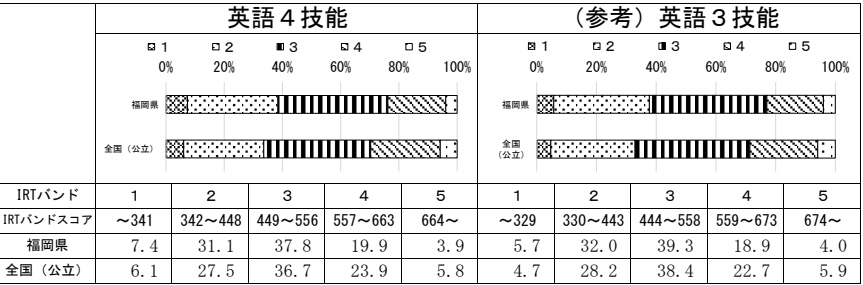
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

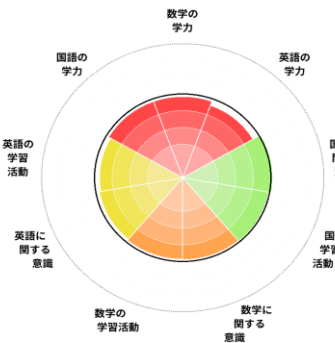


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

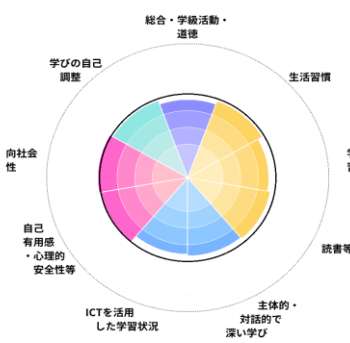
<結果チャート>

※全国平均 (5.0) を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.8
2	数学の学力		4.8
3	英語の学力		4.6
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.1
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.9
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.9
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.9
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.8
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.7

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等) の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.7
11	生活習慣	(1) ～ (4)	4.9
12	学習習慣	(23) (25)	4.6
13	読書等	(26) ～ (30)	4.7
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.7
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.6
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.0
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.1
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.9

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

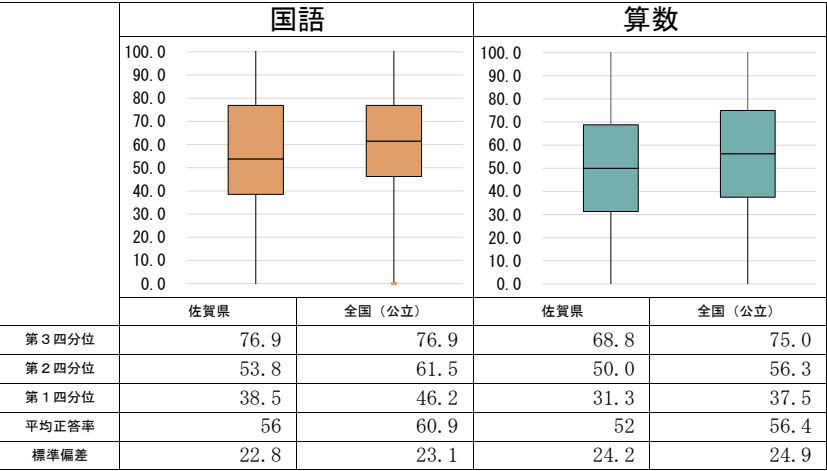
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
 - ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
 - ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「向社会性」や「国語に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「学習習慣」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「向社会性」や「国語に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「ICTを活用した学習状況」や「学習習慣」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

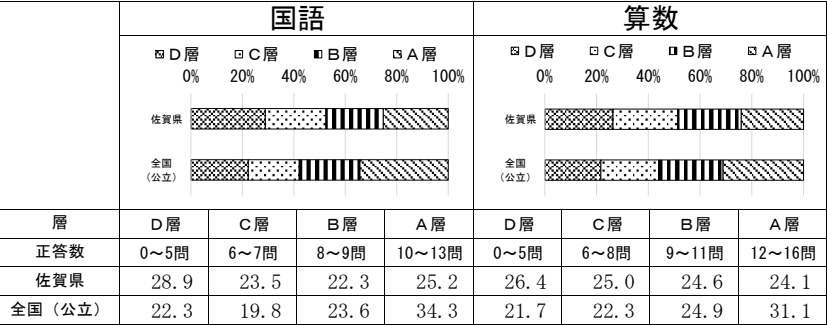
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

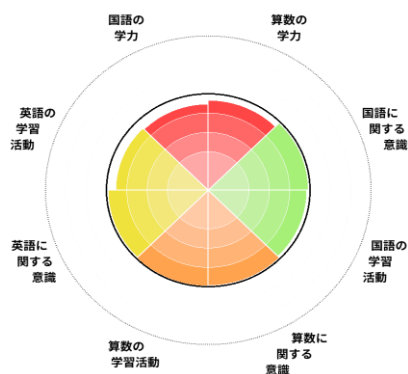


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

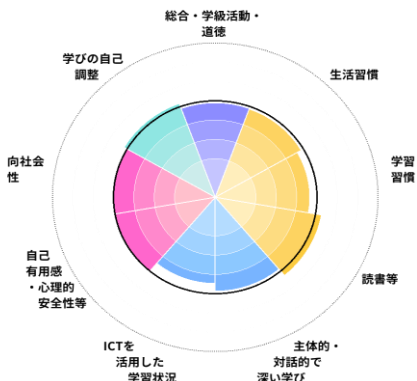
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.5
2	算数の学力		4.7
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.9
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.8
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.9
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.0
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	4.9
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.6

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

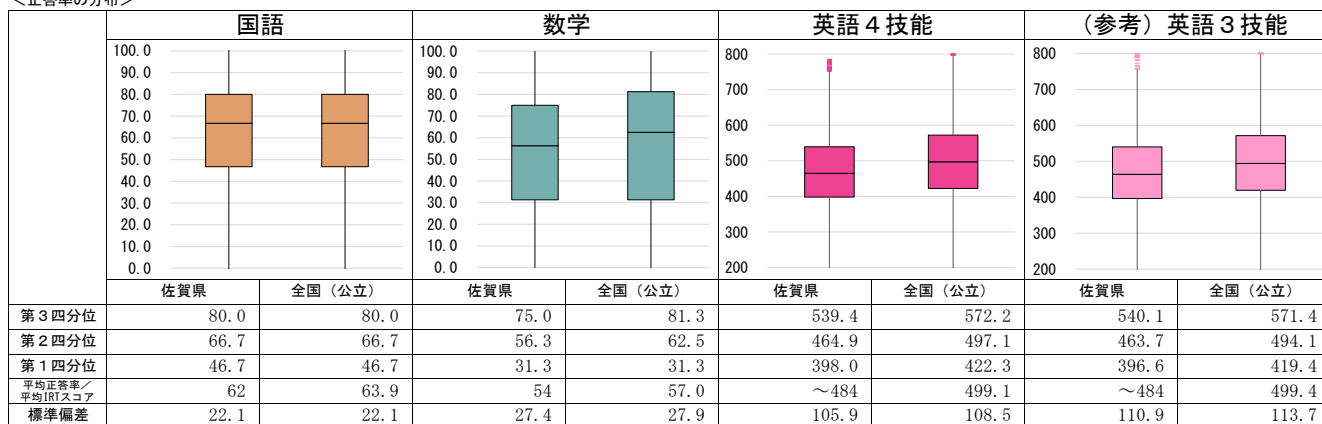
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.9
10	生活習慣	(1) ～ (4)	4.9
11	学習習慣	(23) (25)	4.6
12	読書等	(26) ～ (30)	5.3
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.9
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.5
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.0
16	向社会的	(11) (12) (14) (33)	5.0
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.2

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

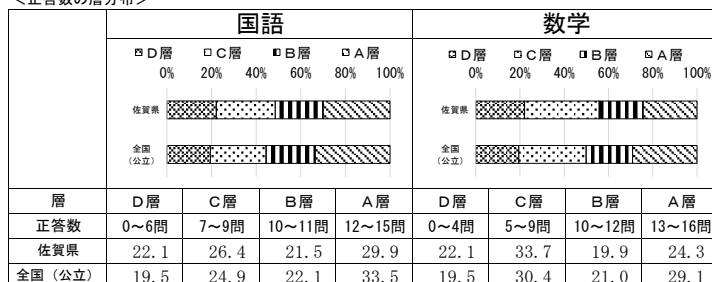
②中学校

<正答率の分布>



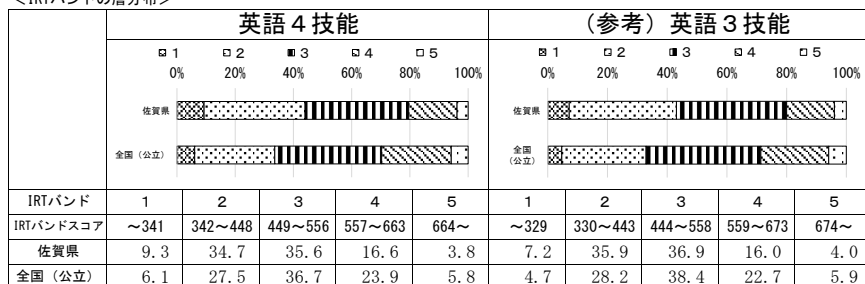
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

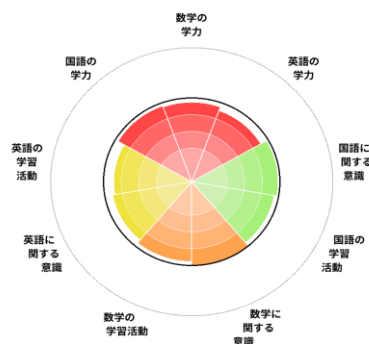


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

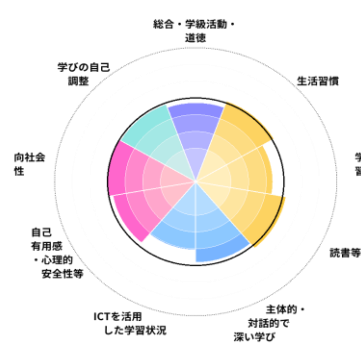
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.8
2	数学の学力		4.7
3	英語の学力		4.5
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	4.9
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.7
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.0
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.8
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.6
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.4

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.7
11	生活習慣	(1) ～ (4)	5.1
12	学習習慣	(23) (25)	4.4
13	読書等	(26) ～ (30)	5.2
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.8
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.1
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.8
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.0
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.9

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

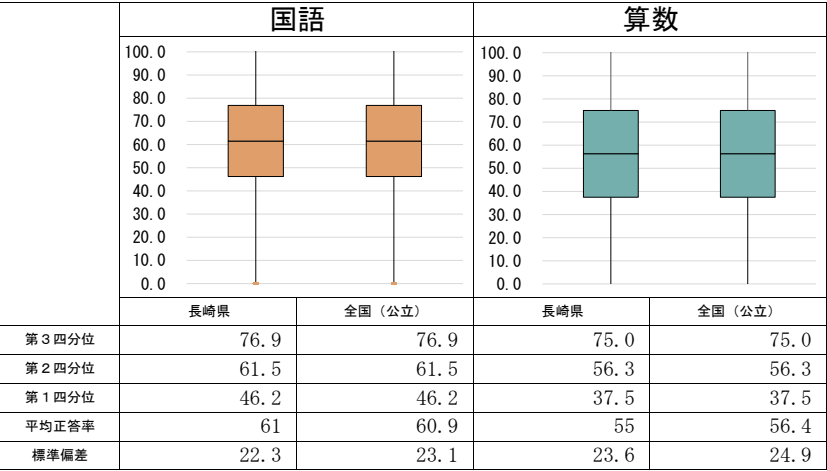
・小学校においては、「読書等」や「学びの自己調整」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「ICTを活用した学習状況」や「学習習慣」領域のスコアについて、低い結果が出ている（うち、「ICTを活用した学習状況」は、全国と比較しても低い）。

・中学校においては、「読書等」や「向社会性」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「ICTを活用した学習状況」や「学習習慣」領域のスコアについて、低い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して低い）。

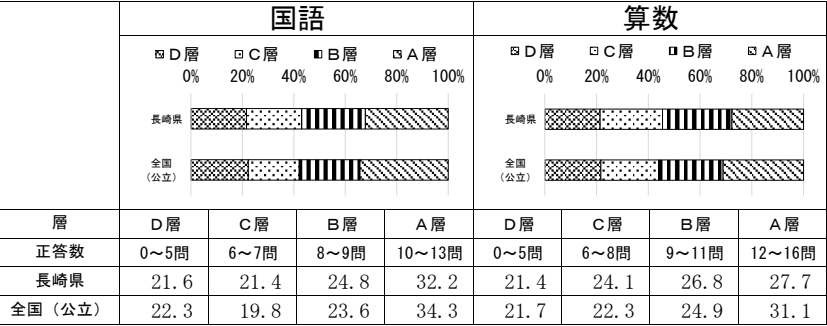
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

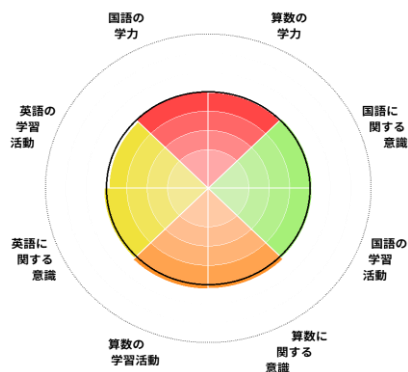


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）

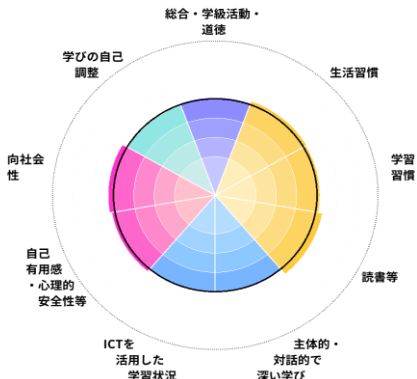


<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.0
2	算数の学力		5.0
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.1
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.1
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.2
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.2
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	5.1
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.9

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



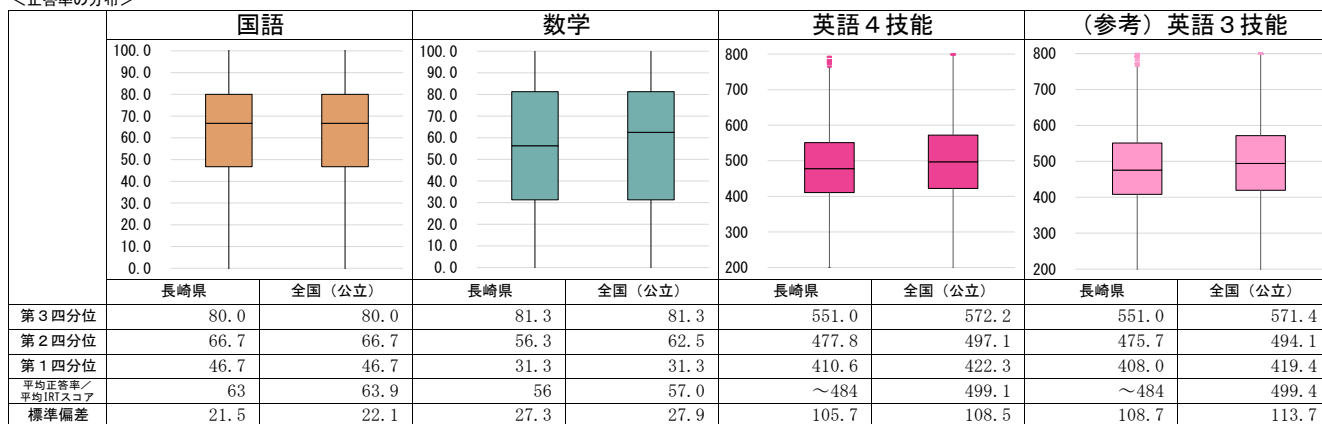
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	5.1
10	生活習慣	(1) ～ (4)	5.2
11	学習習慣	(23) (25)	5.1
12	読書等	(26) ～ (30)	5.3
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.0
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.0
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.2
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.2
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.0

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

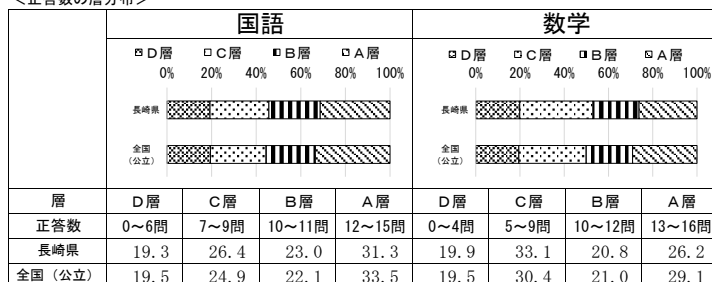
②中学校

<正答率の分布>



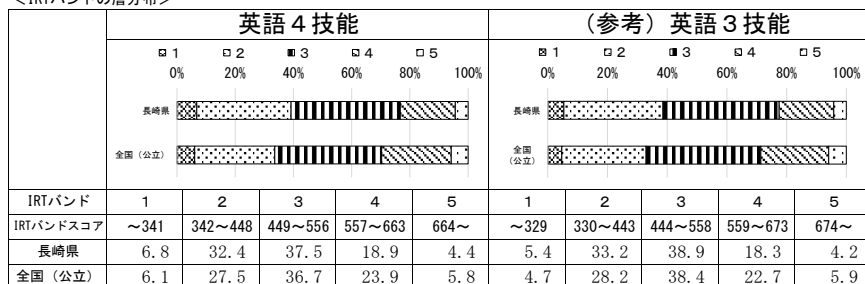
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

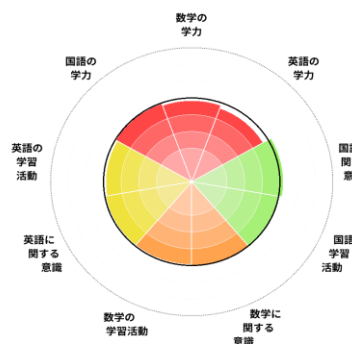


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

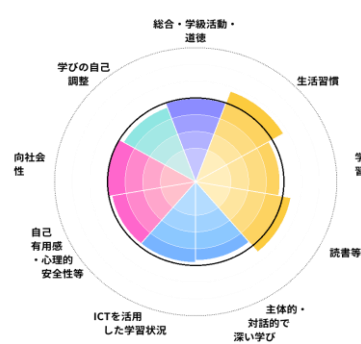
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.0
2	数学の学力		4.9
3	英語の学力		4.7
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.2
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.0
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.0
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.9
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	4.9
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.9

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	5.0
11	生活習慣	(1) ～ (4)	5.7
12	学習習慣	(23) (25)	4.8
13	読書等	(26) ～ (30)	5.5
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.7
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	4.8
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.8
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.0
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.7

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

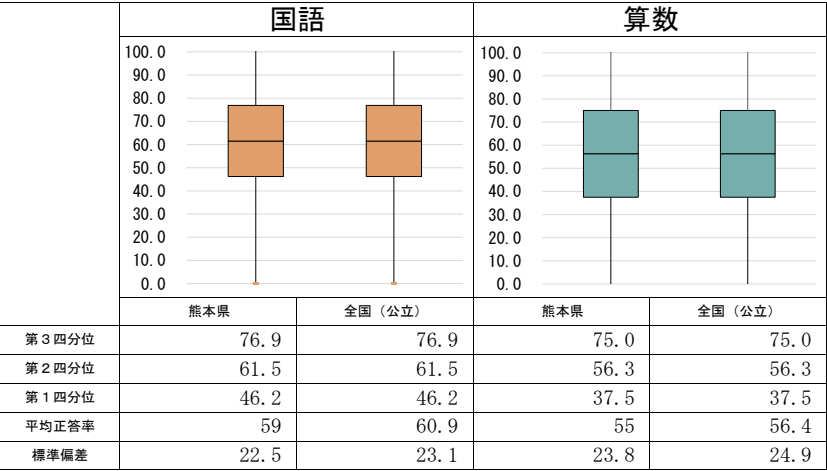
- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

- ・小学校においては、「読書等」や「自己有用感・心理的安全性等」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「英語の学習活動」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「生活習慣」や「国語に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている（うち、「生活習慣」は、全国と比較しても高い）。また、「主体的・対話的で深い学び」や「学びの自己調整」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

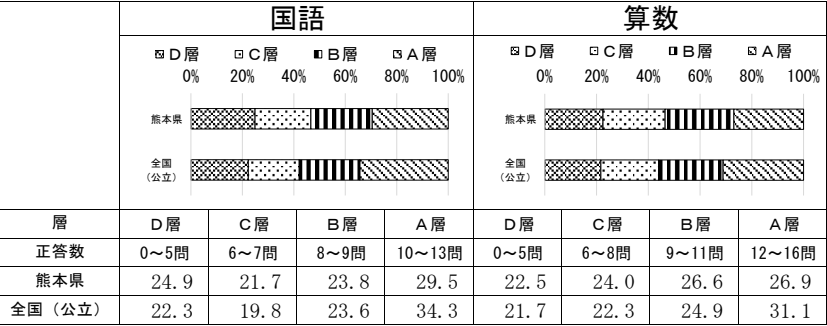
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

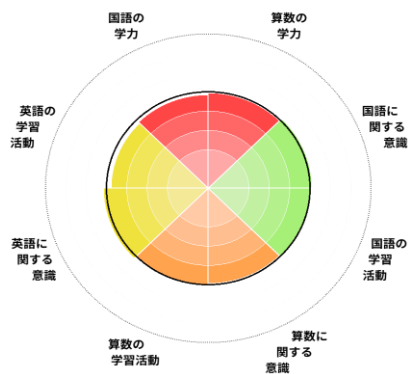


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

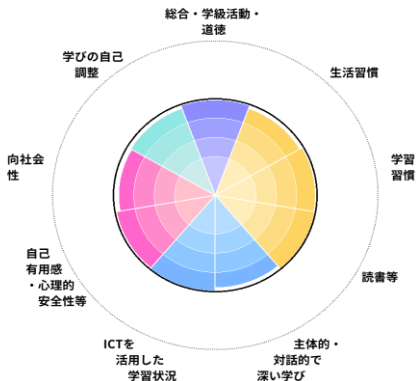
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.8
2	算数の学力		4.9
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.1
4	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	5.0
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	4.9
6	算数の学習活動	(62) (65) ~ (67)	5.0
7	英語に関する意識	(69) ~ (71)	5.1
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.7

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

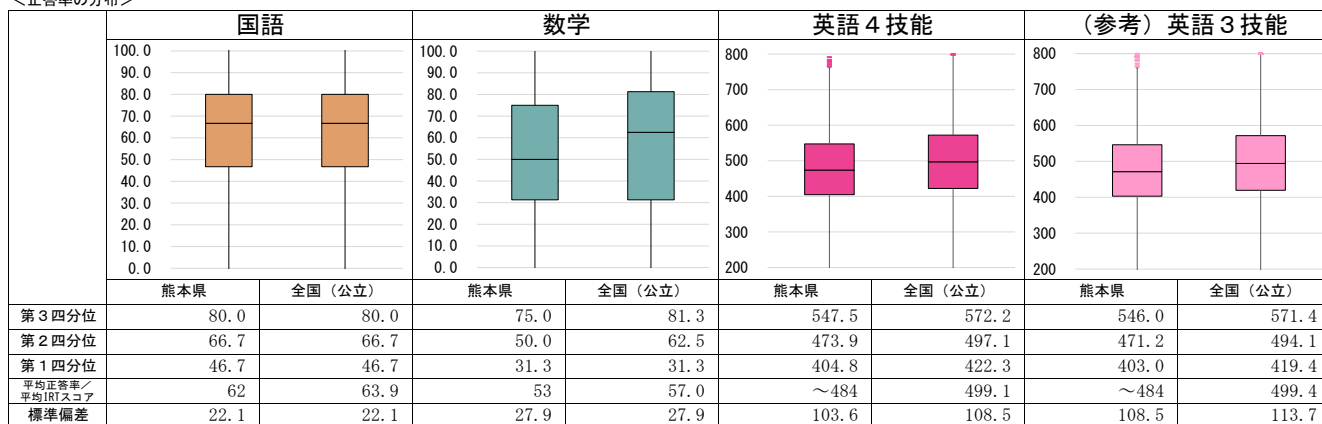
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	4.9
10	生活習慣	(1) ~ (4)	4.8
11	学習習慣	(23) (25)	4.9
12	読書等	(26) ~ (30)	5.0
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	4.8
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	5.0
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.9
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	4.7
17	学びの自己調整	(22) (43)	4.8

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

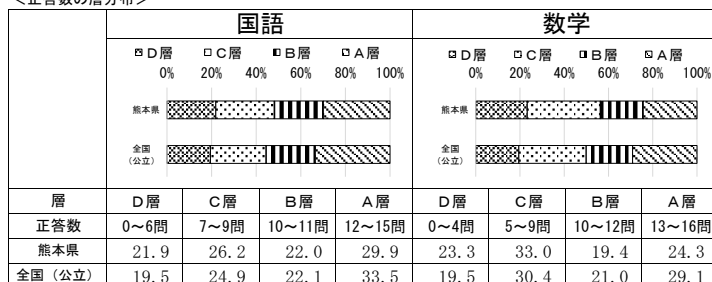
②中学校

<正答率の分布>



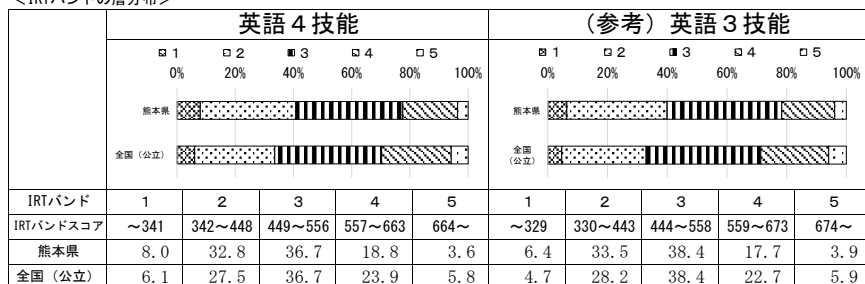
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

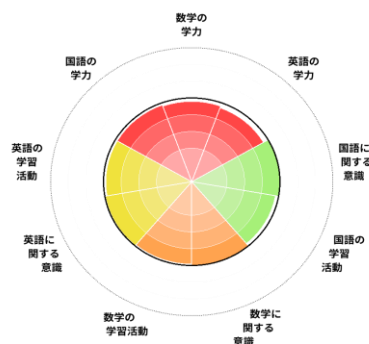


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

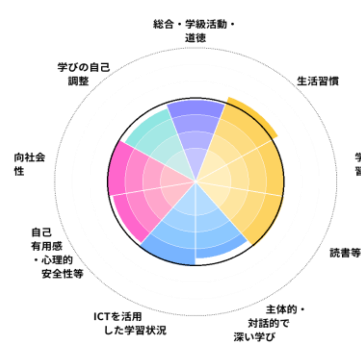
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.9
2	数学の学力		4.8
3	英語の学力		4.7
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.0
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	4.8
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.0
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	4.9
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	5.0
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	4.9

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.9
11	生活習慣	(1) ～ (4)	5.4
12	学習習慣	(23) (25)	5.0
13	読書等	(26) ～ (30)	5.1
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.6
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.1
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.8
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.0
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.7

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

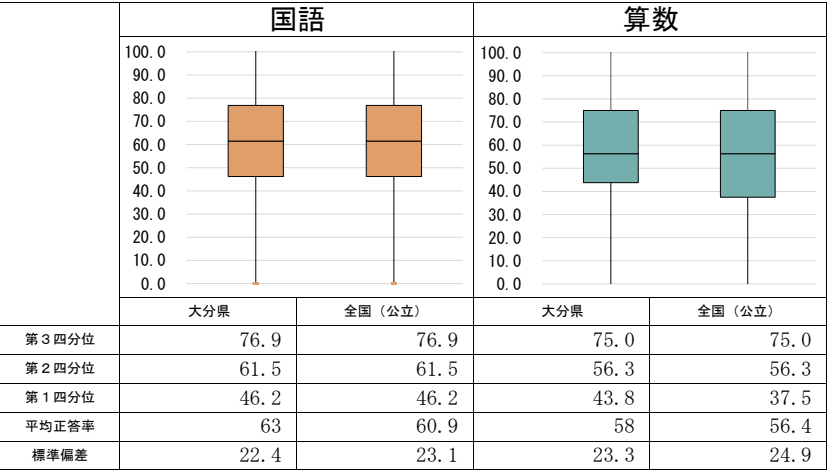
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「国語に関する意識」や「英語に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「向社会性」や「英語の学習活動」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「生活習慣」や「ICTを活用した学習状況」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「主体的・対話的で深い学び」や「学びの自己調整」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

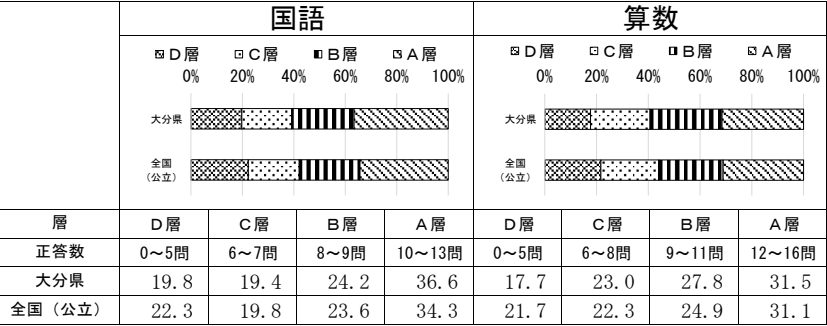
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

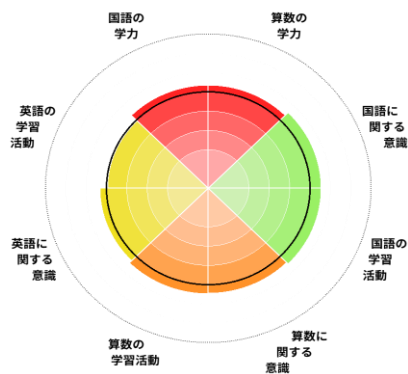


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

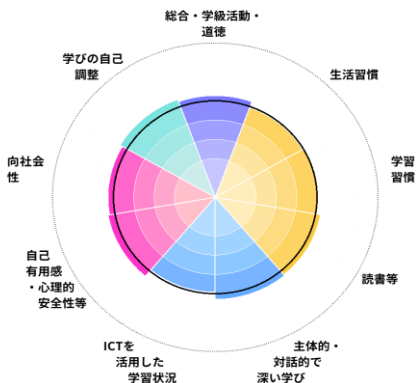
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.4
2	算数の学力		5.3
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.5
4	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	5.5
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.4
6	算数の学習活動	(62) (65) ~ (67)	5.5
7	英語に関する意識	(69) ~ (71)	5.3
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.9

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

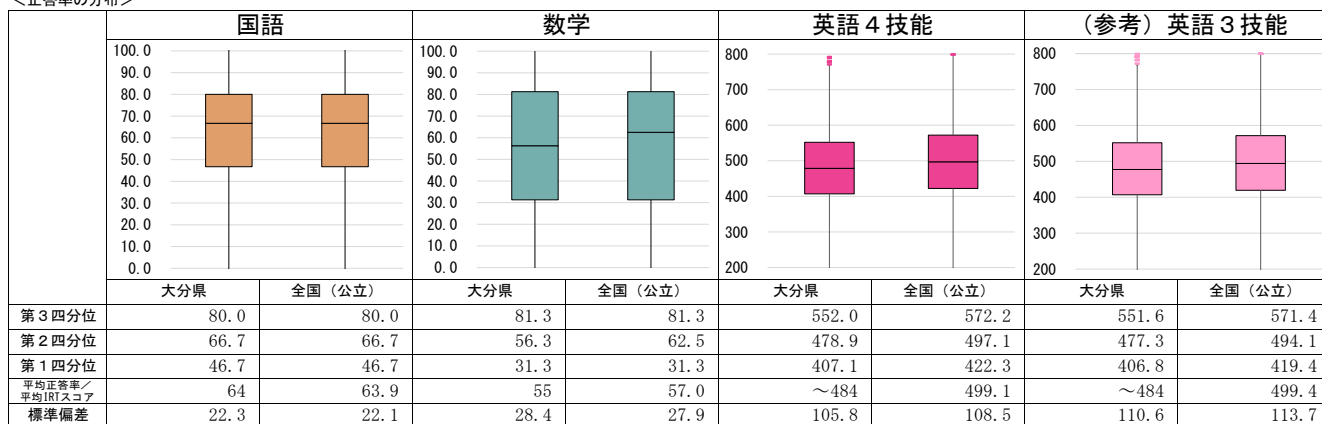
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	5.3
10	生活習慣	(1) ~ (4)	4.9
11	学習習慣	(23) (25)	5.0
12	読書等	(26) ~ (30)	5.2
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	5.3
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	4.9
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.3
16	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.3
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.4

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

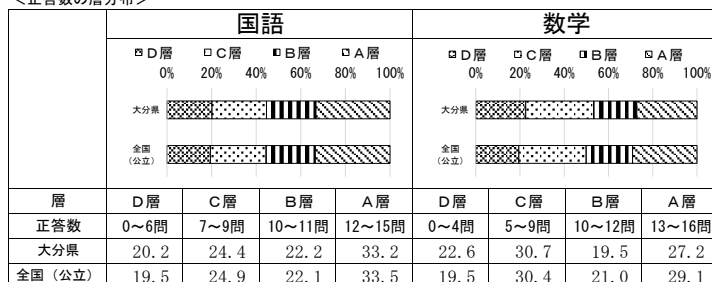
②中学校

<正答率の分布>



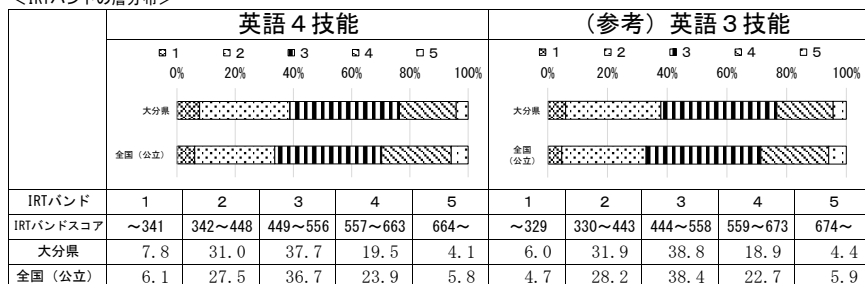
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A~D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

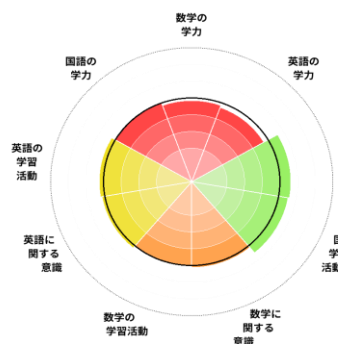


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

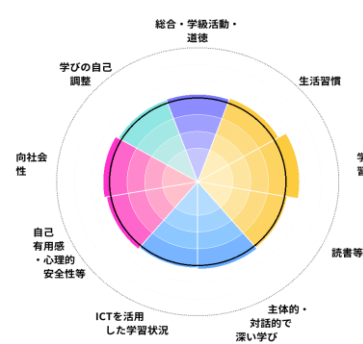
<結果チャート>

※全国平均 (5.0) を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.0
2	数学の学力		4.9
3	英語の学力		4.7
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.6
5	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	5.5
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.1
7	数学の学習活動	(62) (65) ~ (67)	5.1
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	5.1
9	英語の学習活動	(71) (74) ~ (76) (78) ~ (80)	5.2

※領域番号4~9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等) の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	5.2
11	生活習慣	(1) ~ (4)	5.3
12	学習習慣	(23) (25)	5.8
13	読書等	(26) ~ (30)	5.1
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	5.2
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	5.1
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.2
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.4
18	学びの自己調整	(22) (43)	5.2

※領域番号10~18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

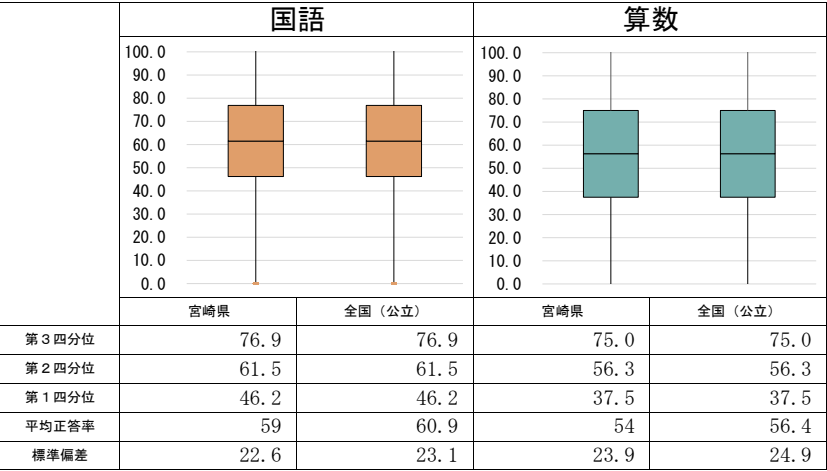
【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
 - ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
 - ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「国語に関する意識」や「算数の学習活動」領域のスコアについて、高い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して高い）。また、「ICTを活用した学習状況」や「生活習慣」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「学習習慣」や「国語に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して高い）。また、「ICTを活用した学習状況」や「読書等」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

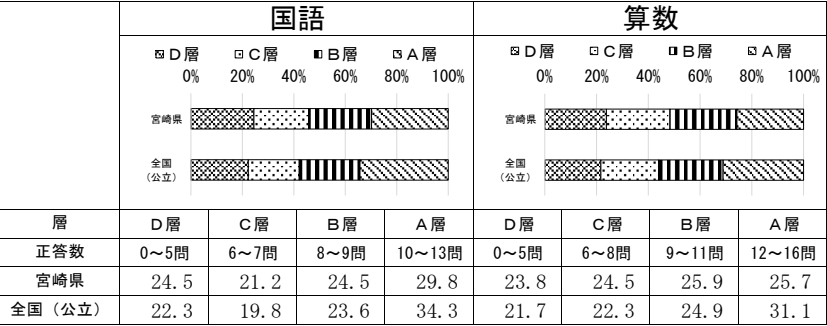
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

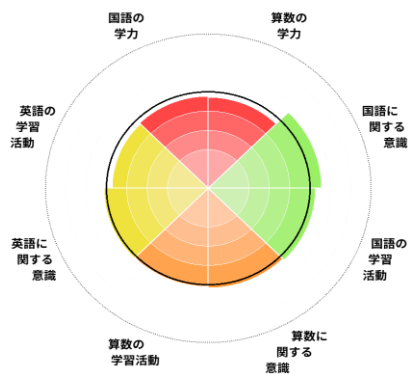


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）

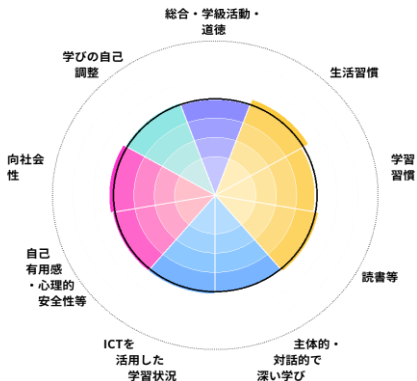


<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.8
2	算数の学力		4.7
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.6
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.3
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.1
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.1
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	5.1
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.7

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



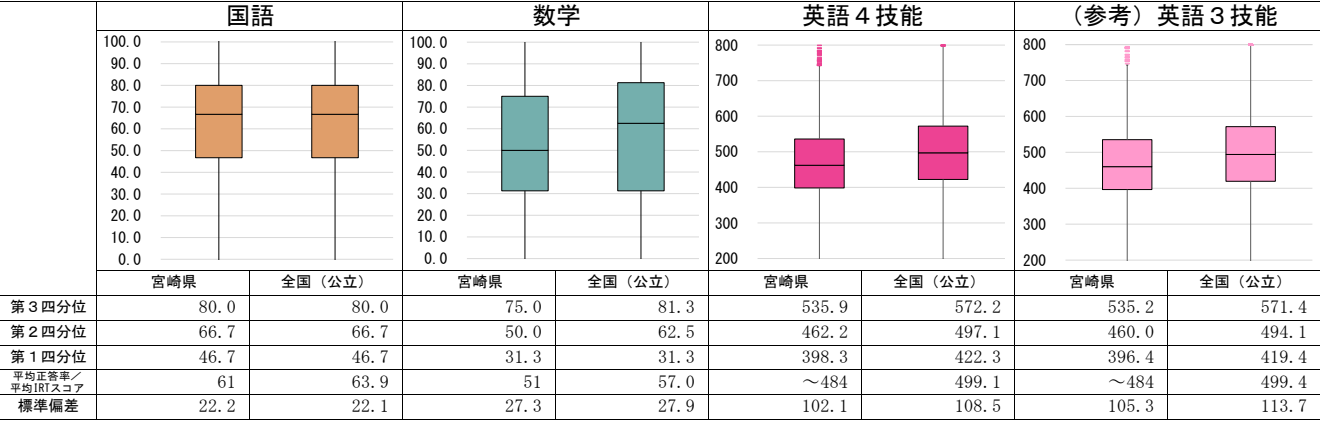
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	5.0
10	生活習慣	(1) ～ (4)	5.3
11	学習習慣	(23) (25)	4.9
12	読書等	(26) ～ (30)	5.1
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.0
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.1
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.1
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.2
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.1

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

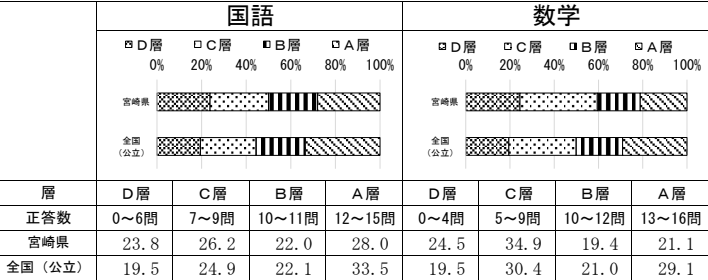
②中学校

<正答率の分布>



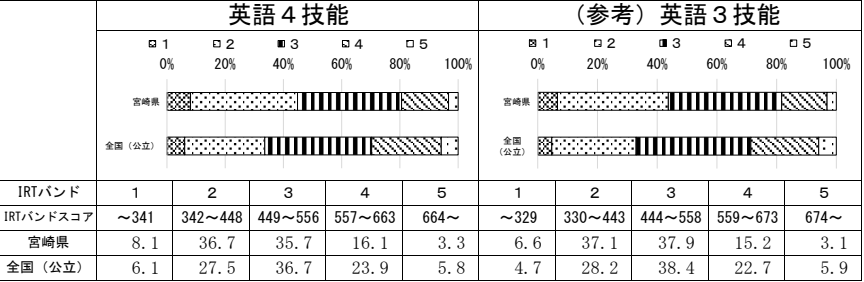
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

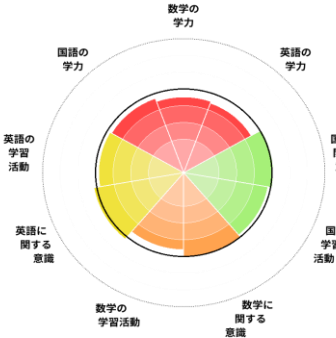


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

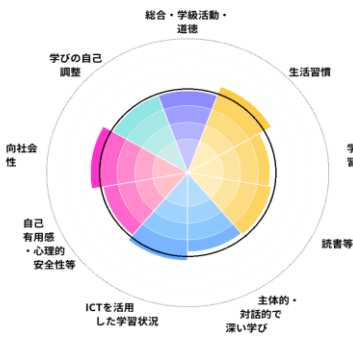
<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.7
2	数学の学力		4.5
3	英語の学力		4.4
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.1
5	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	4.8
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.0
7	数学の学習活動	(62) (65) ~ (67)	4.6
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	5.2
9	英語の学習活動	(71) (74) ~ (76) (78) ~ (80)	4.8

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	4.9
11	生活習慣	(1) ~ (4)	5.5
12	学習習慣	(23) (25)	4.7
13	読書等	(26) ~ (30)	4.8
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	4.7
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	5.2
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.9
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.5
18	学びの自己調整	(22) (43)	4.9

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

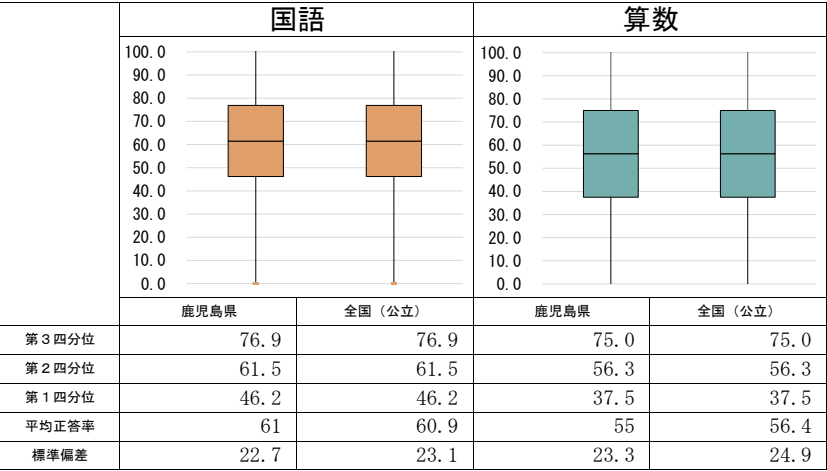
・小学校においては、「国語に関する意識」や「生活習慣」領域のスコアについて、高い結果が出ている（うち、「国語に関する意識」は、全国と比較しても高い）。また、「英語の学習活動」や「学習習慣」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

・中学校においては、「向社会性」や「生活習慣」領域のスコアについて、高い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して高い）。また、「数学の学習活動」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

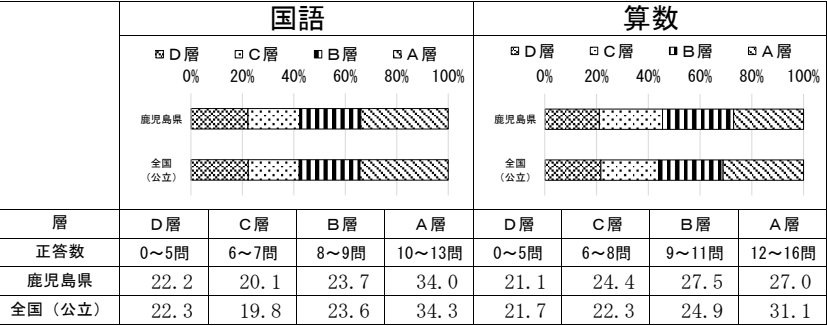
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

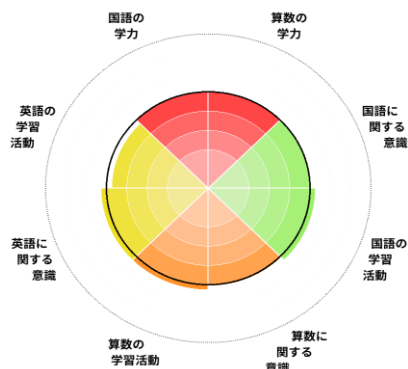


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）

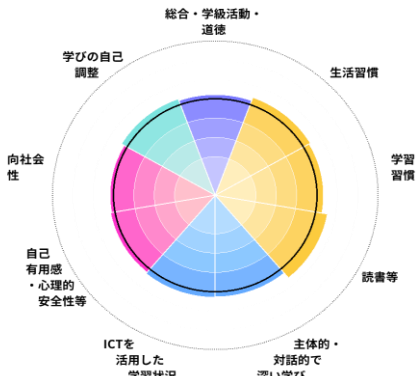


<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.0
2	算数の学力		5.0
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.0
4	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	5.3
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.1
6	算数の学習活動	(62) (65) ~ (67)	5.3
7	英語に関する意識	(69) ~ (71)	5.3
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.7

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



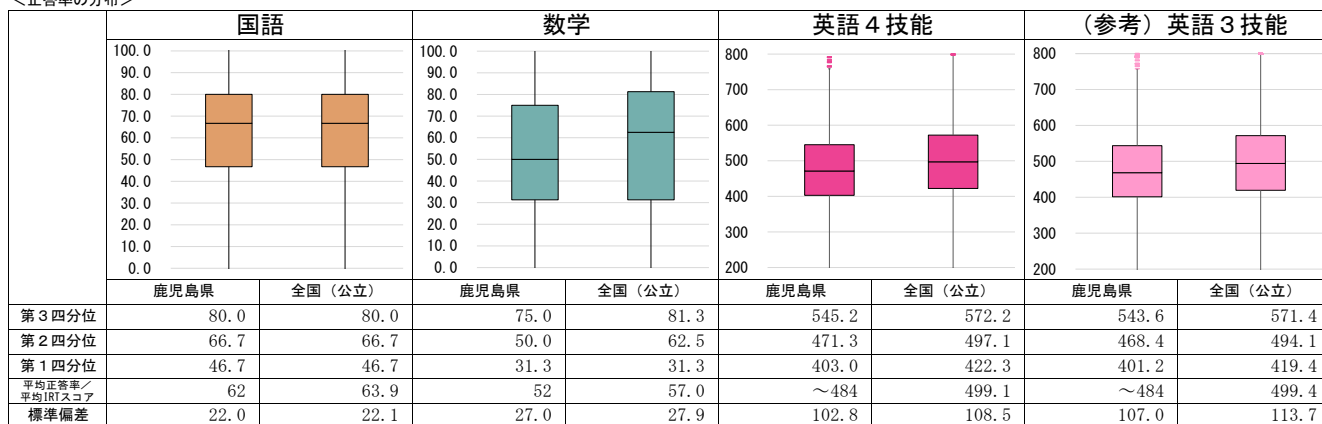
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	5.2
10	生活習慣	(1) ~ (4)	5.4
11	学習習慣	(23) (25)	5.3
12	読書等	(26) ~ (30)	5.6
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	5.3
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	5.3
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.2
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	5.1
17	学びの自己調整	(22) (43)	5.3

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

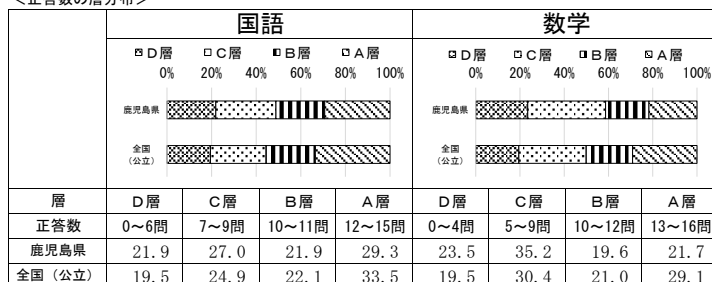
②中学校

<正答率の分布>



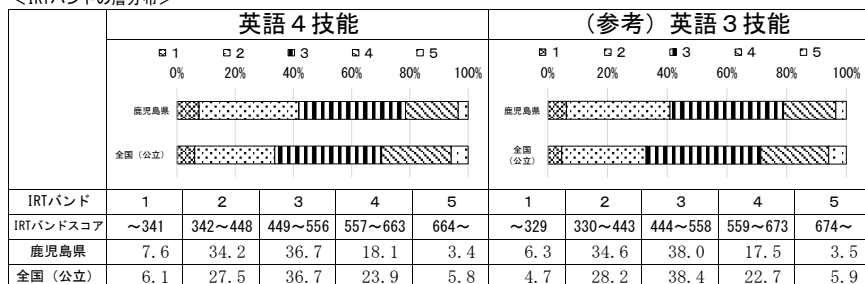
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

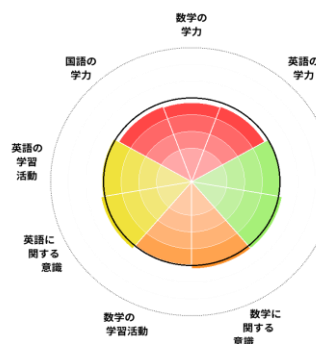


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

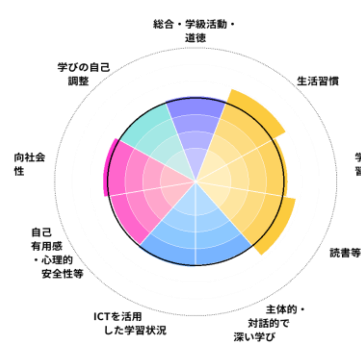
<結果チャート>

※全国平均 (5.0) を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.8
2	数学の学力		4.7
3	英語の学力		4.8
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.0
5	国語の学習活動	(54) (56) ~ (59)	5.2
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.2
7	数学の学習活動	(62) (65) ~ (67)	5.0
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	5.2
9	英語の学習活動	(71) (74) ~ (76) (78) ~ (80)	5.1

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等) の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ~ (51)	5.1
11	生活習慣	(1) ~ (4)	5.9
12	学習習慣	(23) (25)	5.2
13	読書等	(26) ~ (30)	5.8
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ~ (42) (44) (46)	4.9
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ~ (36-4)	5.1
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ~ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	4.9
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.3
18	学びの自己調整	(22) (43)	5.0

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校のD層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

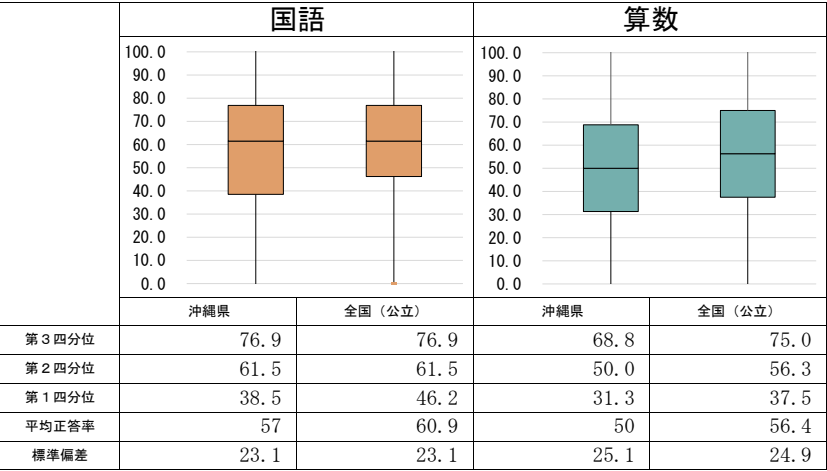
・小学校においては、「読書等」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、高い結果が出ている（うち、「読書等」は、全国と比較しても高い）。また、「英語の学習活動」や「国語に関する意識」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

・中学校においては、「生活習慣」や「向社会性」領域のスコアについて、高い結果が出ている（うち、「生活習慣」は、全国と比較しても高い）。また、「主体的・対話的で深い学び」や「自己有用感・心理的安全性等」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

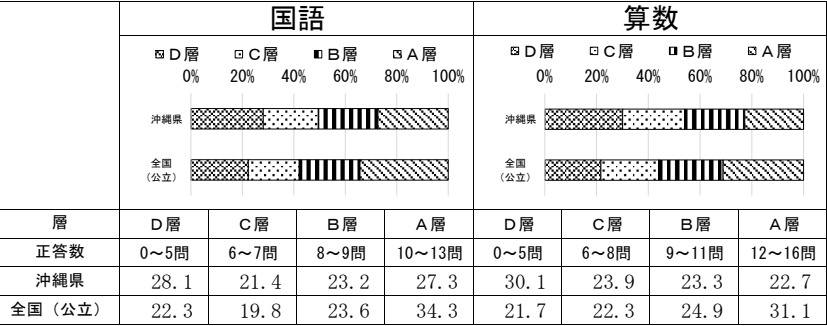
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

<正答率の分布>



<正答数の層分布>

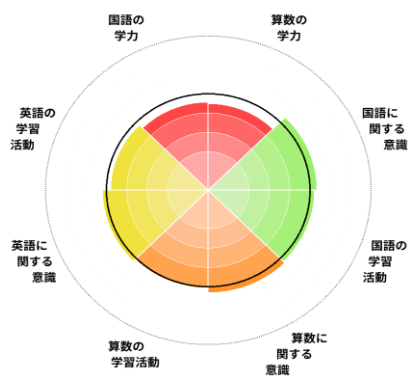


※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<結果チャート>

※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）

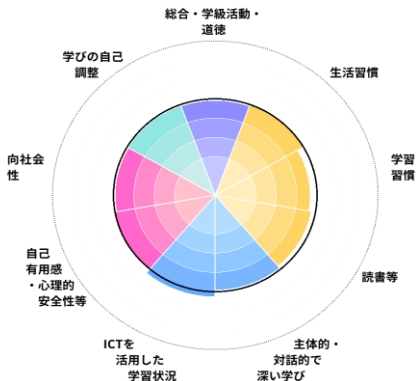


<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.6
2	算数の学力		4.5
3	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.3
4	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.2
5	算数に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.3
6	算数の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.1
7	英語に関する意識	(69) ～ (71)	5.2
8	英語の学習活動	(72) (73)	4.8

※領域番号3～8については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



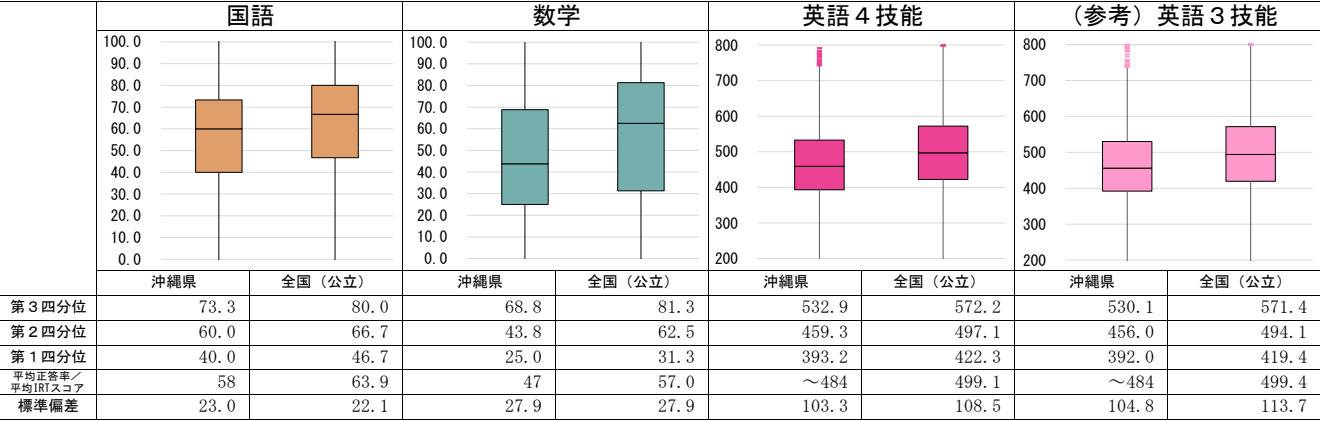
<令和8年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	4.9
10	生活習慣	(1) ～ (4)	5.0
11	学習習慣	(23) (25)	4.6
12	読書等	(26) ～ (30)	4.8
13	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	4.9
14	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.3
15	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.0
16	向社会性	(11) (12) (14) (33)	4.9
17	学びの自己調整	(22) (43)	4.9

※領域番号9～17については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

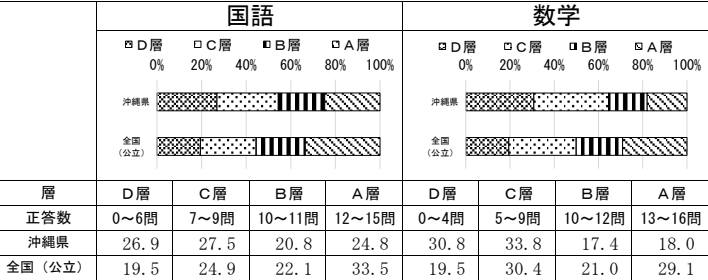
②中学校

<正答率の分布>



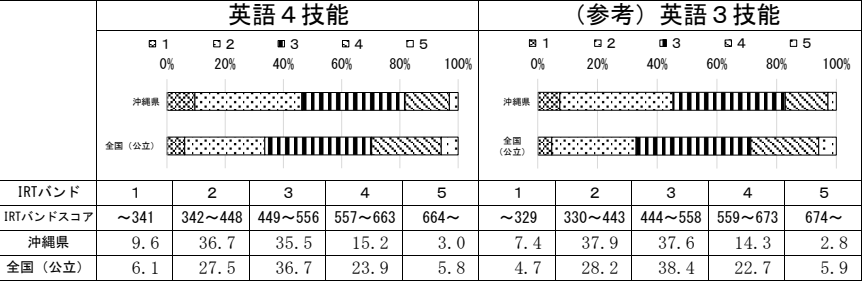
※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

<正答数の層分布>



※A～D層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

<IRTバンドの層分布>

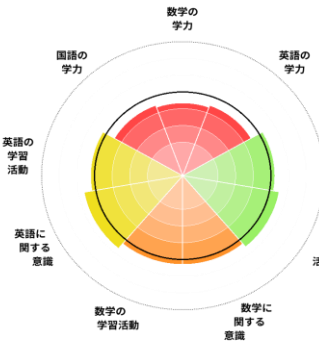


※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

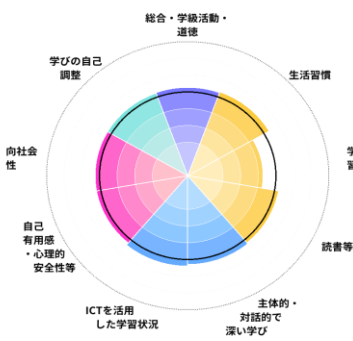
<結果チャート>

※全国平均 (5.0) を黒の実線で示している。

[教科を中心とした学力・学習状況]
(全国基準)



[その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)]
(全国基準)



<令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.5
2	数学の学力		4.3
3	英語の学力		4.5
4	国語に関する意識	(52) (53) (55)	5.2
5	国語の学習活動	(54) (56) ～ (59)	5.6
6	数学に関する意識	(60) (61) (63) (64)	5.3
7	数学の学習活動	(62) (65) ～ (67)	5.3
8	英語に関する意識	(69) (70) (72) (73)	5.7
9	英語の学習活動	(71) (74) ～ (76) (78) ～ (80)	5.2

※領域番号4～9については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

<令和8年度その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等) の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	(47) ～ (51)	5.3
11	生活習慣	(1) ～ (4)	5.3
12	学習習慣	(23) (25)	4.3
13	読書等	(26) ～ (30)	5.2
14	主体的・対話的で深い学び	(38) ～ (42) (44) (46)	5.3
15	ICTを活用した学習状況	(35) (36-1) ～ (36-4)	5.4
16	自己有用感・心理的安全性等	(6) ～ (9) (13) (15) (17) (20) (21)	5.2
17	向社会的性	(11) (12) (14) (33)	5.2
18	学びの自己調整	(22) (43)	5.2

※領域番号10～18については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・小学校のD層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・中学校数学について、D層の割合が全国と比較して10%以上多い結果となっている。他の教科については、全国と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「ICTを活用した学習状況」や「国語に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「学習習慣」や「英語の学習活動」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
- ・中学校においては、「英語に関する意識」や「国語の学習活動」領域のスコアについて、高い結果が出ている（なお、いずれも、全国と比較して高い）。また、「学習習慣」や「自己有用感・心理的安全性等」領域のスコアについて、低い結果が出ている（うち、「学習習慣」は、全国と比較しても低い）。